

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数	担当 教員	前田 一篤	
体づくり運動		教員の免許状取得のための 必修科目		1 単位	担当 教員	前田 一篤	
					担当 形態	単独	
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・体育					
授業のテーマ及び到達目標							
1.学習指導要領に示されている「体づくり運動」について理解できる。 2.体づくり運動に関する教材・指導案の作成ができる。							
授 業 の 概 要							
本授業は学習指導要領（保健体育編）の体育分野領域の一つ「A 体づくり運動」を学ぶ。本実技科目に関する知識、技術を学習し、実際に指導する上での基礎となるものを身につける。また、模擬授業を通して、教職に就く者の資質向上を目指す。授業は、講義として「体づくり運動」に関する歴史と理論、学習指導要領における「体づくり運動」の解説、体づくり運動の教材研究、指導案作りを行う。実技授業として体づくり運動の教材体験、各班の模擬授業を行う。特に模擬授業では、学生が「教員」「生徒」の役に分かれ、授業を展開する。その後のディスカッションにおいて、理解を深めていく。							
授 業 計 画							
第 1 回	オリエンテーション（「体づくり運動」とは）						
第 2 回	「体づくり運動」の実際 1 （体ほぐしの運動）						
第 3 回	「体づくり運動」の実際 2 （体力を高める運動）						
第 4 回	「体づくり運動」の模擬授業に向けて（グループ分け・指導案の作成）						
第 5 回	「体づくり運動」の模擬授業に向けて（指導案の作成）						
第 6 回	模擬授業とディスカッション 1（体づくり運動の授業づくりについて）						
第 7 回	模擬授業とディスカッション 2（「体ほぐしの運動」について）						
第 8 回	模擬授業とディスカッション 3（「体ほぐしの運動」の教材づくりについて）						
第 9 回	模擬授業とディスカッション 4（「体の動きを高める運動」について）						
第 10 回	模擬授業とディスカッション 5（「体の動きを高める運動」の教材づくりについて）						
第 11 回	模擬授業とディスカッション 6（「実生活に活かす運動の計画」について）						
第 12 回	模擬授業とディスカッション 7（「実生活に活かす運動の計画」の教材づくりについて）						
第 13 回	「体づくり運動」に関わる教材研究・教材考案						
第 14 回	「体づくり運動」に関わる教材研究・教材考案						
第 15 回	「体づくり運動」に関わる教材の提案						
定期試験	実施する						
テキスト		適宜、資料を配布する。					
参 考 書 参考資料等		講義に関連し、適宜案内する。					
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他	合 計
	60%	%	40%	%	%	%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当教員		瀬尾 賢一郎 前田 一篤	
器械運動		教員の免許状取得のための		1 単位		担当形態		複数	
		必修科目							
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目							
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育							
授業のテーマ及び到達目標									
1.器械・器具を点検し、安全に留意しながら練習や指導を行うことができる。 2.器械運動（主にマット・跳び箱）における知識と技術を身につけ、技を円滑に実施できる。 3.グループ活動において、積極的かつ協働的な姿勢で取り組むことができる。									
授 業 の 概 要									
学習指導要領（保健体育編）の体育分野領域の一つ「B 器械運動」は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本授業では主にマット運動及び跳び箱運動に関する知識や技能を修得し、最終的には、それぞれの技を組み合わせた連続技の試技によって、技能の定着を確認する。また、器械運動における各種目の技術を段階的・系統的に学習し修得することを通して、それらの技の補助法・指導法についても学び、実践的な指導技術の修得を目指す。									
授 業 計 画									
第 1 回	オリエンテーション （本授業の概要、授業の分担決めとグループ分け）								
第 2 回	各種目（マット・跳び箱）に分かれてグループ練習（それぞれ難易度 A の技術習得）								
第 3 回	各種目（マット・跳び箱）に分かれてグループ練習（マットの難易度 B の技術習得）								
第 4 回	各種目（マット・跳び箱）に分かれてグループ練習（跳び箱の難易度 B の技術習得）								
第 5 回	各種目（マット・跳び箱）に分かれてグループ練習（マットの難易度 C の技術習得）								
第 6 回	各種目（マット・跳び箱）に分かれてグループ練習（跳び箱の難易度 C の技術習得）								
第 7 回	各種目（マット・跳び箱）に分かれてグループ練習（マットの難易度 D の技術習得）								
第 8 回	各種目（マット・跳び箱）に分かれてグループ練習（跳び箱の難易度 D の技術習得）								
第 9 回	マットの既習技の試技								
第 10 回	跳び箱の既習技の試技								
第 11 回	マットの連続技の練習								
第 12 回	跳び箱の連続技の練習								
第 13 回	試験で発表する連続技の練習								
第 14 回	連続技の発表会（マット）								
第 15 回	連続技の発表会（跳び箱）								
定期試験									
テキスト		適宜、資料を配布する。							
参 考 書 参考資料等		文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」平成 29 年告示 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」平成 30 年告示							
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他	合 計	
		60%	%	40%	%	%	%	100%	

授 業 科 目 名		必 修 ／ 選 択		単位数	担当 教員	西山 健太 松田 亮	
陸上競技		教員の免許状取得のための		1 単位	担当 形態	複数	
		必修科目					
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育						
授業のテーマ及び到達目標							
1.陸上競技の特性・技能・ルール・トレーニング方法を理解できる 2.陸上競技の技能・トレーニング方法を実践できる							
授 業 の 概 要							
本講義では陸上競技の特性・ルール・トレーニング方法を理解できることや、陸上競技に意欲・関心を持って取り組めること、陸上競技の技能・トレーニング方法を実践できるようになることを目標とする。「陸上競技」では、年齢や競技レベルを問わず、記録という客観的な指標の追求を通して、他者や自分自身との競争を楽しみ、卓越や達成の喜びを得られるという、陸上競技の本質的な価値や楽しさを伝えられるようになることを目的とする。そのため、陸上競技における走・跳・投の基本的な種目に取り組むこととする。授業は実習を中心に進行しながら、各種目のルールの知識や技能、トレーニング方法について解説する。また、スポーツライフステージや競技レベルに応じた適切な指導の在り方についても解説する。							
授 業 計 画							
第 1 回	オリエンテーション					担当(西山・松田)	
第 2 回	ウォーキングの特性と指導					担当(西山・松田)	
第 3 回	ウォーキングの実際					担当(西山・松田)	
第 4 回	ジョギングの特性と指導					担当(西山・松田)	
第 5 回	ジョギングの実際					担当(西山・松田)	
第 6 回	走種目のルールと特性					担当(西山・松田)	
第 7 回	短距離走の技能					担当(西山・松田)	
第 8 回	ハードル走のルールと特性					担当(西山・松田)	
第 9 回	ハードル走の技能					担当(西山・松田)	
第 10 回	跳躍種目のルールと特性					担当(西山・松田)	
第 11 回	走高跳の技能					担当(西山・松田)	
第 12 回	投てき種目のルールと特性					担当(西山・松田)	
第 13 回	砲丸投の技能					担当(西山・松田)	
第 14 回	競技会					担当(西山・松田)	
第 15 回	まとめ					担当(西山・松田)	
定期試験	実施しない						
テ キ ス ト		『中学校部活動における陸上競技指導の手引き』公益財団法人日本陸上競技連盟					
参 考 書 参考資料等		『陸上競技指導教本アンダー16・19〔初級編〕基礎から身につく陸上競技』公益財団法人日本陸上競技連盟（大修館書店） 『陸上競技指導教本アンダー16・19〔上級編〕レベルアップの陸上競技』公益財団法人日本陸上競技連盟（大修館書店） 『陸上競技のコーチング学』日本陸上競技学会（大修館書店）					
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他	合 計
	%	%	40%	60%	%	%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員		仁 木 康 浩	
水 泳		教員の免許状取得のための 必修科目		1 単位		担当 教員		単 独	
						担当 形態			
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目							
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育							
授業のテーマ及び到達目標									
1.水の特性を理解できる。 2.プールや海で起こりうる安全を理解できる。 3.水泳の基礎知識と基本四泳法を習得することを通じて、教育機関や施設などで指導できる。									
授 業 の 概 要									
水泳は、水の中で浮く、沈む、呼吸動作、潜る等の水中運動に必要な基礎能力を学修し、泳ぎの基本となる4泳法（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）の技術習得・向上を目指すとともに、水泳指導案の作成・実技を学修する。また、水泳の安全に関わる水中運動時の運動強度やそのコントロール法に関する知識や技術を習得する。本授業においては、「水泳」の授業や指導を行う際、4泳法における手と足の動き、呼吸動作、水中姿勢のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり、速く泳いだり、水中運動と健康増進に関わる指導が出来ることを目指す。									
授 業 計 画									
第 1 回		水泳における浮身、け伸び、ストリームラインの理解 水泳における安全管理（水中運動時の運動強度やそのコントロール）について							
第 2 回		クロールの泳力判定、班別け、基本姿勢の習得 クロールの指導方法の説明							
第 3 回		クロールの基本姿勢、キック、プル、呼吸法の習得 クロールにおけるコンビネーション、スタート、ターンの習得							
第 4 回		背泳ぎの泳力判定、班別け、基本姿勢の習得 背泳ぎの指導方法の説明							
第 5 回		背泳ぎの基本姿勢、キック、プル、呼吸法の習得 背泳ぎのコンビネーション、スタート、ターンの習得							
第 6 回		平泳ぎの泳力判定、班別け、基本姿勢の習得 平泳ぎの指導方法の説明							
第 7 回		平泳ぎの基本姿勢、キック、プル、呼吸法の習得							
第 8 回		平泳ぎのコンビネーション、スタート、ターンの習得							
第 9 回		バタフライの泳力判定、班別け、基本姿勢の習得 バタフライの指導方法の説明							
第 10 回		バタフライの基本姿勢、キック、プル、呼吸法の習得							
第 11 回		バタフライのコンビネーション、スタート、ターンの習得							
第 12 回		4泳法の習熟度確認、個人メドレーへの発展 個人メドレーのターン習得、泳能力の向上							
第 13 回		水中レクリエーション及び水中運動と健康増進の理解（初心者への様々なアプローチ、水中歩行、アクアビクス）							
第 14 回		水中運動と健康増進の理解（水中歩行、水中レジスタンス）							
第 15 回		実技テスト（4泳法、個人メドレー）・水泳の模擬授業 初心者グループ、初級者、クロール、平泳ぎ等の班に分かれ、先生役、補助役、生徒役に 分かれて模擬授業を行う							
定期試験		実施する							
テ キ ス ト		『水泳指導教本』日本水泳連盟編（大修館書店）							
参 考 書 参考資料等		講義に関連し、適宜案内する。							
学 生 に 対 する 評 価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他	合 計	
		60%	%	20%	20%	%	%	100%	

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数	担当 教員	水崎 佑毅 武藤 克宏
ゴール型球技		教員の免許状取得のため の 必修科目		1 単 位		
				担当 形態	オムニバス	
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育					
授業のテーマ及び到達目標						
1.技能や連携した動きを用いてゲームを展開できる（技能） 2.主体的に取り組める（態度） 3.基礎知識を理解できる（知識）						
授 業 の 概 要						
ゴール型球技の特性やルールの理解、対象の発育・発達段階に応じた指導法の理解を通じた実践的な指導法の修得を目指す。また、スポーツの本質ともいえる「楽しさ」への認識も深めることを目標とする。バスケットボールやサッカーといった球技を通じて、ドリブルやパス、シュートといった基本的なボールスキルの獲得、数的有意な状況での判断力の育成や状況に応じた戦術の理解を深める。また、リスクマネジメントへの理解も深め、現場に求められる安全面に配慮した指導法の修得も目指す。						
授 業 計 画						
第 1 回	オリエンテーション（本講義の目的と概要）					担当（ 水崎・武藤 ）
第 2 回	バスケットボール① コーディネーション、ボール保持、ボールハンドリング					担当（ 水 崎 ）
第 3 回	バスケットボール②ドリブル、パス					担当（ 水 崎 ）
第 4 回	バスケットボール③ シュート（レイアップ、セットシュート、ジャンプシュート）					担当（ 水 崎 ）
第 5 回	バスケットボール④数的優位時の状況判断（2-1、3-2、4-3）					担当（ 水 崎 ）
第 6 回	バスケットボール⑤ ディフェンスとオフェンスの基本、リバウンディング					担当（ 水 崎 ）
第 7 回	バスケットボール⑥ ミニゲーム（スクリメージ、ゲームプランを立てる）					担当（ 水 崎 ）
第 8 回	バスケットボール⑦ミニゲーム（チーム戦術を立てる）					担当（ 水 崎 ）
第 9 回	サッカー①サッカーのルール、ドリブルに着眼点を置いたゲーム					担当（ 武 藤 ）
第 10 回	サッカー②パスに着眼点を置いたゲーム					担当（ 武 藤 ）
第 11 回	サッカー③トラップに着眼点を置いたゲーム					担当（ 武 藤 ）
第 12 回	サッカー④シュートに着眼点を置いたゲーム					担当（ 武 藤 ）
第 13 回	サッカー⑤サッカーの戦術①（攻撃、守備の基本）					担当（ 武 藤 ）
第 14 回	サッカー⑥サッカーの戦術②（攻守の切り替え）					担当（ 武 藤 ）
第 15 回	サッカー⑦ゲーム、まとめ					担当（ 武 藤 ）
定期試験	実施しない					
テ キ ス ト	適宜、資料を配布する					
参 考 書 参考資料等	日本バスケットボール協会「バスケットボール指導教本 改訂版 上巻」大修館書店 日本バスケットボール協会「バスケットボール指導教本 改訂版 下巻」大修館書店					
学 生 に 対 する 評 価	技能	態度	知識	合 計		
	60%	30%	10%	100%		

授 業 科 目 名		必 修 ／ 選 択		単位数	担当 教員	西 博史 山崎 将幸	
ネット型球技		教員の免許状取得のための 必修科目		1 単 位	担当 教員		
					担当 形態	オムニバス	
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育					
授業のテーマ及び到達目標							
1. ネット型競技（バドミントン・バレーボール）の基本的知識・技能を習得し、状況に応じてこれらの基本的知識・技能を活用することができる。 2. ネット型競技の特性を踏まえた授業計画を作成することができる。 3. 自他の課題を発見し、他者と協同しながら課題解決に向けて授業に取り組むことができる。							
授 業 の 概 要							
ネット型球技はコート上でネットを挟んで相対し、身体や用具を操作してボールを開いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。本授業では様々なネット型球技のうちバドミントンならびにバレーボールの2種目を実施し、ネット型球技及び各種目の特性に触れるとともに、基本的な実技能力の修得を目指す。またルールや審判法を学び、さらに各種目のゲーム構造や教育効果を学ぶことによって、実践的な指導に役立つ知識・技能を身につけることができる。							
授 業 計 画							
第 1 回	ネット型球技（バドミントン・バレーボール）ガイダンス					担当（ 西・山崎 ）	
第 2 回	バレーボール① ボールコントロール①：直上パス、対人パス、簡易ゲーム					担当（ 西 ）	
第 3 回	バレーボール② ボールコントロール②：様々な状況でのパス、3 人レシーブ、簡易ゲーム					担当（ 西 ）	
第 4 回	バレーボール③ スパイクとブロック①：ステップ、手投げでのスパイク、ブロックの形、簡易ゲーム					担当（ 西 ）	
第 5 回	バレーボール④ スパイクとブロック②：様々なポジションからのスパイク、ブロックのステップ、簡易ゲーム					担当（ 西 ）	
第 6 回	バレーボール⑤ 戦術練習①：速攻、コンビネーション攻撃、簡易ゲーム					担当（ 西 ）	
第 7 回	バレーボール⑥ 戦術練習②：スパイクレシーブに対する守備隊系、簡易ゲーム					担当（ 西 ）	
第 8 回	バレーボール⑦リーグ戦					担当（ 西 ）	
第 9 回	バドミントン① ネットの立て方、準備時の危険性（リスクマネジメント）					担当（ 山崎 ）	
第 10 回	バドミントン②オーバーヘッドストロークの指導方法					担当（ 山崎 ）	
第 11 回	バドミントン③ドライブの指導方法					担当（ 山崎 ）	
第 12 回	バドミントン④アンダーハンドストロークの指導方法					担当（ 山崎 ）	
第 13 回	バドミントン⑤サーブの指導方法					担当（ 山崎 ）	
第 14 回	バドミントン⑥審判法の理解（シングルス・ダブルス）					担当（ 山崎 ）	
第 15 回	バドミントン⑦ゲーム運営（団体戦）					担当（ 山崎 ）	
定期試験	実施する						
テキスト	適宜、資料を配布する。						
参 考 書 参考資料等	講義に関連し、適宜案内する。						
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他	合 計
	60%	%	40%	%	%	%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択	単位数	担当 教員	北 哲 也
ベースボール型 球技		教員の免許状取得のための	1 単位	担当 形態	単独
		必修科目			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目				
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育				
授業のテーマ及び到達目標					
1.基本的技術「投げる」「打つ」「捕る」が身に付いている。 2.競技方法や規則について理解できている。 3.安全に留意した授業実践と技術指導の要点について理解できている。					
授 業 の 概 要					
ベースボール型とは身体やバットの操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手より多くの得点を競い合うゲームである。そのため、授業内においては走・投・打といった個人に求められる基本的技能の習得を目指すとともに、ゲーム内での連携プレイを通してベースボール型球技の特性に触れる。またルールや審判法に関する知識を学ぶとともに、ベースボール型球技に対する理解や指導方法を身につけることを目的とする。					
授 業 計 画					
第 1 回	オリエンテーション（授業概要、ベースボール型球技の特性・用具の説明）				
第 2 回	投球・捕球の基本的技術 1（キャッチング・スローイングの基礎、グラブ操作）				
第 3 回	投球・捕球の基本的技術 2（ゴロ捕球）				
第 4 回	投球・捕球の基本的技術 3（フライ捕球）				
第 5 回	打撃の基本的技術 1（スイングの基礎、ティーバッティング）				
第 6 回	打撃の基本的技術 2（バットコントロール、遠くに打球を飛ばすコツ）				
第 7 回	走塁の基本的技術（ベースランニング）				
第 8 回	守備の基本的技術 1（内野ノック）				
第 9 回	守備の基本的技術 2（外野ノック、内・外野の連携）				
第 10 回	ソフトボールの競技規則についての知識（ルールならびに審判法）				
第 11 回	ソフトボールのゲーム 1（競技の運営方法、授業における特別ルールの設定）				
第 12 回	ソフトボールのゲーム 2（状況に応じた守備側の動き）				
第 13 回	ソフトボールのゲーム 3（状況に応じた攻撃側の動き）				
第 14 回	ソフトボールのゲーム 4（ゲームにおける個人成績の管理）				
第 15 回	まとめ（基本的技能・指導上の留意点を確認）				
定期試験	実施しない				
テ キ ス ト	適宜、資料を配布する。				
参 考 書 参考資料等	わかりやすいソフトボールのルール（スポーツシリーズ） 成美堂出版				
学 生 に 対 する 評 価	基本的技術の習得	競技方法と規則、審判法の理解	安全に留意した授業実践と 授業展開への理解	合 計	
	40%	30%	30%	100%	

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数	担当 教員	大庭 尚子	
ダンス		教員の免許状取得のための		1 単位	担当 形態	単独	
		必修科目					
科	目	教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育					
授業のテーマ及び到達目標							
1.様々なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊りを創作できる。 2.身近な日常生活動作を題材にしたり、対極の動きを連続させたりして、ダンス未経験者から多様な身体表現を引き出すことができる。 3.日本や外国の民族舞踊から、それらの踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ることができる。							
授 業 の 概 要							
ダンスの基礎技術を習得し、楽しく踊るとともにダンスの表現課題や作品の構成方法について学習する。授業内容として、指導要領の理解、道具を手掛かりにした「ひと流れ」の動きづくり、対極の動き、群（集団）の動きなどを学習すると同時に、マイクロティーチングによって指導法についても習得していく。また、日本や外国の民族舞踊を習得し、創作ダンスの制作・発表なども行う。この授業を通じ、指導者としてダンスを親しみ、楽しさや喜びを味わえるようステップや表現方法、歴史的背景などの技能や知識を身につけ、ダンスを自ら創作しかつ指導できるようになることを目的とする。							
授 業 計 画							
第 1 回	ガイダンスと指導要領の理解 ・ ダンスの授業の進め方、クラス分けについて ・ ダンスの必修化について ・ 創作ダンスの DVD 鑑賞ー現場でのダンス実践ー						
第 2 回	ダンスの単元の導入「8、8、4、4、2、2、1、1、1、1」 ・ ダンスの授業での約束事の確認 ・ リズムにあわせて思いっきり体を動かそう						
第 3 回	道具を手掛かりにした「ひと流れ」の動きづくり						
第 4 回	対極の動き「走るー止まる」を手がかりにしたメリハリのある動きづくり						
第 5 回	群（集団）の動き「集まるーとび散る」を手がかりに 群や隊形を変形させる						
第 6 回	身近な動き「スポーツ動作」を手掛かりに小作品を創作する						
第 7 回	現代的なリズムの音楽を用いてリズムで遊ぶ						
第 8 回	現代的なリズムに乗って「動くー止まる」						
第 9 回	日本の民族舞踊（炭坑節 ・ 郡上八幡踊り）						
第 10 回	外国の民族舞踊（オクラホマミキサー・マイムマイム・コロブチカ・パティケーキポルカ）						
第 11 回	創作ダンス制作① ・ テーマ決め ・ テーマから連想される動きをデッサンする						
第 12 回	創作ダンス制作② ・ デッサンした動きを繋げてひと流れの動きにする						
第 13 回	創作ダンス制作③ ・ ひと流れの動きに群の変化や時間性の変化を加えて作品をつくる						
第 14 回	創作ダンス制作④ ・ 作品の踊りこみとりハーサル ・ 作品タイトル、概要の提出						
第 15 回	創作ダンス作品の発表会						
定期試験	実施する						
テ キ ス ト	全国ダンス・表現運動授業研究会編 『改訂版 明日からトライ！ダンスの授業』大修館書店						
参 考 書 参考資料等	全国ダンス・表現運動授業研究会編 『みんなでトライ！表現運動の授業』大修館書店						
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他	合 計
	30%	%	10%	60%	%	%	100%

授 業 科 目 名		必 修 ／ 選 択		単位数		担当教員		中嶋 健 清原 泰治		
スポーツ文化論Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単位		担当教員				
						担当形態		オムニバス		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目								
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育								
授業のテーマ及び到達目標										
1. 体育とスポーツの意味概念と原理を理解できる。 2. 体育とスポーツの歴史の基本を理解できる。 3. スポーツの社会的機能と価値の基本を理解できる。										
授 業 の 概 要										
現代社会におけるスポーツは単に競技種目として存在するだけでなく、教育、政治、経済をはじめ科学技術、医療、地域コミュニティ、娯楽・レクリエーション、ファッション、文学、芸術など人々のあらゆる生活文化に多様に関わっている。本講義では、現代スポーツ文化の特徴と課題を理解するために、体育及びスポーツの概念とその原理と意味、価値を様々な歴史的背景などを学んでいく。										
授 業 計 画										
第 1 回	オリエンテーション								担当(中嶋・清原)	
第 2 回	「体育」はなぜ汎愛教育から始まったのかーグーツムーツによる近代体育の成立ー								担当(清原)	
第 3 回	ドイツのトゥルネンはなぜナポレオンを打ち破ったのかーヤーンによる国民体育の成立ー								担当(清原)	
第 4 回	「Sport」の概念はイギリスでどのように成立したか								担当(清原)	
第 5 回	近代スポーツの成立過程ー暴力の排除と文明化の過程ー								担当(中嶋)	
第 6 回	オリンピズムとスポーツの国際化ークーベルタンの教育・スポーツ思想とオリンピック大会の開催ー								担当(中嶋)	
第 7 回	アマチュアリズムはなぜ崩壊したかースポーツが抱えざるを得なかった矛盾ー								担当(清原)	
第 8 回	戦争と国際紛争に翻弄されるオリンピズムーオリンピック大会を襲う悲劇ー								担当(清原)	
第 9 回	体育・スポーツの誕生と国際化ー前半の授業のリフレクシオンー								担当(中嶋・清原)	
第 10 回	日本ではなぜ行進が体育の教材になったのかー兵式体操と富国強兵ー								担当(清原)	
第 11 回	スポーツには暴力がつきまとうのかーエリート教育を目指した「体育会系」運動部が背負う負の遺産								担当(清原)	
第 12 回	相撲と祭礼化した運動会が担った地域の活性化								担当(清原)	
第 13 回	日本の地域スポーツを担った青年団活動								担当(清原)	
第 14 回	戦後の復旧・復興と地域スポーツのチカラ								担当(清原)	
第 15 回	「これまでの体育・スポーツの話をしよう」ーまとめとスポーツ文化論Ⅱに向けてー								担当(中嶋・清原)	
定期試験		実施する								
テキスト		適宜、資料を配布する。								
参考書 参考資料等		講義に関連し、適宜案内する。								
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他	合 計		
		50%	20%	30%	%	%	%	100%		

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数	担当 教員	中嶋 健 清原 泰治	
スポーツ文化論Ⅱ		教員の免許状取得のため の 必修科目		2 単 位		担当 形態	オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育						
授業のテーマ及び到達目標							
1.現代社会におけるスポーツの特徴と諸問題について理解できる。 2.地域の特性を生かして、地域の活性化にスポーツを活用するための方法を理解できる。 3.スポーツの社会的機能を理解できる。							
授 業 の 概 要							
現代社会におけるスポーツは単に競技種目として存在するだけでなく、教育、政治、経済をはじめ科学技術、医療、地域コミュニティ、娯楽・レクリエーション、ファッション、文学、芸術など人々のあらゆる生活文化に多様に関わっている。本講義では、「スポーツ文化論Ⅰ」の内容を踏まえ、現代スポーツ文化の特徴と課題について理解を深める。							
授 業 計 画							
第 1 回	オリエンテーション					担当(中嶋・清原)	
第 2 回	スポーツと経済					担当(中 嶋)	
第 3 回	スポーツを支えるスポーツ産業					担当(中 嶋)	
第 4 回	広告代理店はなぜスポーツイベントに影響力を持つのか ーオリンピックマーケティングの功罪ー					担当(中 嶋)	
第 5 回	スポーツマンシップとフェアプレー					担当(中 嶋)	
第 6 回	スポーツインテグリティを守るためには					担当(中 嶋)	
第 7 回	大学スポーツのビジネス化ーNCAA と UNIVASー					担当(中 嶋)	
第 8 回	日本のスポーツ政策ースポーツ基本法とスポーツ基本計画ー					担当(中 嶋)	
第 9 回	障がい者スポーツとパラリンピック大会の開催					担当(中 嶋)	
第 10 回	レジャー・レクリエーションの必要性 ー日本人はスポーツに何を求めているのかー					担当(清 原)	
第 11 回	スポーツの新展開 ー「e スポーツ」は近代スポーツの限界を超えられるのかー					担当(清 原)	
第 12 回	キャンプはなぜ日本人の心を惹きつけたのか					担当(清 原)	
第 13 回	スポーツツーリズム・ヘルスツーリズムは地域を活性化できるか					担当(清 原)	
第 14 回	スポーツを通じたまちづくりの考え方と組織 ー総合型地域スポーツクラブとスポーツコミッションの将来性ー					担当(清 原)	
第 15 回	まとめ					担当(中嶋・清原)	
定期試験	実施する					担当()	
テキスト	適宜、資料を配布する。						
参 考 書 参考資料等	適宜、紹介する。						
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他	合 計
	30%	20%	50%	%	%	%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数	担当 教員	水崎 佑毅		
スポーツ心理学		教員の免許状取得のため の 必修科目		2 単位		担当 形態	単独	
科	目	教科及び教科の指導法に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育						
授業のテーマ及び到達目標								
1.スポーツ心理学に関する基礎的知識の習得する 2.スポーツにおける心理的問題・課題に対する興味・関心をもつ 3.現場への応用方法を学ぶ								
授 業 の 概 要								
運動・スポーツに関わる行動や諸問題や、実践の中で感じる疑問について考えてもらい、それらの現象をスポーツ心理学の知見から深く理解することを目指す。さらに、学修した知識や知見を、競技者・指導者という視点に立って実践現場で活かすことを目指す。スポーツ心理学の小史と学問領域について学ぶ。その後、学問領域ごとに講義を展開する。主に「スポーツと動機づけ」「スポーツの社会心理」「健康スポーツ心理」「競技スポーツの心理」「スポーツの運動学習」について講義する。領域ごとの知見に関する理解を深めるだけでなく、その知見を実践に活かすにはどうすればよいか考察する。								
授 業 計 画								
第 1 回	オリエンテーション（スポーツ心理学小史）							
第 2 回	スポーツにおける動機づけ①～動機づけ、原因帰属							
第 3 回	スポーツにおける動機づけ②～自己効力感							
第 4 回	スポーツにおける動機づけ③～自己決定理論							
第 5 回	スポーツの社会心理①～集団規範							
第 6 回	スポーツの社会心理②～リーダーシップ							
第 7 回	スポーツの社会心理③～指導者の社会的勢力							
第 8 回	運動による健康増進①～運動の心理的効果							
第 9 回	運動による健康増進②～トランスセオレティカル・モデル							
第 10 回	競技スポーツの心理①～パーソナリティ研究							
第 11 回	競技スポーツの心理②～アスリートの心性							
第 12 回	競技スポーツの心理③～心理サポート							
第 13 回	運動学習①～運動学習とは							
第 14 回	運動学習②～指導への応用							
第 15 回	まとめ							
定期試験	実施する							
テキスト		適宜、資料を配布する。						
参 考 書 参考資料等		中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二 編著『やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかるスポーツ心理学』ミネルヴァ書房 杉原隆・船越正康・工藤孝幾・中込四郎 編著『スポーツ心理学の世界』福村出版 日本スポーツ心理学会編『スポーツメンタルトレーニング教本三訂版』大修館書店 杉原隆・船越正康・工藤孝幾・中込四郎 編著『スポーツ心理学の世界』福村出版						
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他	合 計
		80%	%	20%	%	%	%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当教員		尾形 聡	
生理学		教員の免許状取得のため の 必修科目		2 単位		担当教員			
						担当形態		単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目							
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育							
授業のテーマ及び到達目標									
1. 人体の仕組みを、その構成単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルまで、構造と機能との密接な関連のもとに、体系的に説明できる。 2. 五大栄養素の体内での吸収・消化・代謝・働きが、体系的に説明できる。									
授 業 の 概 要									
生理学とは、人体を構成する細胞・組織・臓器がどのような機能を持ち働いているかを解き明かし理解する学問である。本授業では健康・スポーツ・生命科学の分野を中心に解説しながら、摂取した栄養素が生体内でどのように利用されているか学修する。おもに講義形式で授業を進めていくが、ICTを利用しリアルタイムに進達度を確認めながら教員と学生の考え方を共有し相互理解を深めていく。									
授 業 計 画									
第 1 回		細胞と組織の機能 個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構、情報伝達機構、加齢・疾患に伴う変化、個体の死（第1章）							
第 2 回		消化器系① 咀嚼・嚥下、消化管の機能、消化・吸収（第2章）							
第 3 回		消化器系② 肝臓・胆嚢・膵臓の機能、消化管ホルモン（第2章）							
第 4 回		消化器系③ 五大栄養素の体内での働き（糖質・たんぱく質）							
第 5 回		消化器系④ 五大栄養素の体内での働き（脂質・ビタミン・ミネラル）							
第 6 回		血管・リンパ・凝固系 血球の分化・成熟・機能、血漿たんぱく、凝固・線溶系（第3章）							
第 7 回		循環器系 心臓の機能、体循環・肺循環、血圧調節（第4章）							
第 8 回		呼吸器系 気道、肺、血液による酸素・二酸化炭素の運搬（第5章）							
第 9 回		腎・尿路系 尿の生成、体液の調節、腎に作用するホルモン、電解質調節（第6章）							
第 10 回		生殖器系 男女生殖器の機能、性周期・排卵の機序、生殖・発生、分娩（第7章）							
第 11 回		骨格系・筋肉系と運動機能（第8・9章） 骨・軟骨・関節・靱帯・筋肉の成長と機能							
第 12 回		内分泌系（第10章） ホルモンの調節機構、ホルモンの種類と働き							
第 13 回		神経系および感覚器系（第11・12章） 中枢神経と末梢神経（体性神経と自律神経、脳神経と脊髄神経）感覚器の受容器と伝導路、摂食の調節							
第 14 回		免疫系 免疫系の臓器と細胞の機能、生体防御機構（第13章）							
第 15 回		皮膚組織・体温調節 総まとめ 皮膚組織の機能、体温調節機構（第14章）							
定期試験		実施する							
テキスト		『栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版』志村二三夫著（羊土社）							
参 考 書 参考資料等		特になし							
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他	合 計	
		100%	%	%	%	%	%	100%	

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当教員		江崎 和希	
運動生理学		教員の免許状取得のため の 必修科目		2 単位		担当教員			
						担当形態		単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目							
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育							
授業のテーマ及び到達目標									
1.スポーツや身体活動によって適応する身体機能について理解できる。 2.骨格筋の種類、特徴とトレーニング適応について理解できる。 3.運動時の呼吸・循環応答とトレーニング適応について理解できる。 4.運動における神経系や内分泌系の役割について理解できる。									
授 業 の 概 要									
運動生理学は、スポーツや身体活動によって身体にどのような応答および適応が生じるのか、その現象と仕組みを研究する学問である。本講義では、筋の形態的・機能的な特徴の把握、運動時の代謝調節、ホルモン分泌や神経系・呼吸・循環調節など、様々な観点から運動時の生理的な調節機序を学修する。これにより、運動やトレーニングによる骨格筋や呼吸循環器の適応効果などについて理解を深めることが出来る。									
授 業 計 画									
第 1 回		オリエンテーション（授業概要の説明等）							
第 2 回		細胞の構造と機能							
第 3 回		骨格系と運動（骨の種類と運動）							
第 4 回		筋系と運動（筋の構造と機能）							
第 5 回		神経系と運動（神経組織と脳）							
第 6 回		呼吸器系と運動（呼吸器官の構造と呼吸機能）							
第 7 回		感覚系と運動（受容器と感覚）							
第 8 回		内分泌系と運動（内分泌腺とホルモン） 血液と運動（血液の組成と血球細胞）							
第 9 回		心臓の構造と機能、血管系と運動（循環と機能）							
第 10 回		運動中の基質・エネルギー代謝							
第 11 回		免疫系と運動							
第 12 回		消化器系と運動							
第 13 回		環境と運動（高温下での運動）							
第 14 回		環境と運動（低酸素下（高地）での運動）							
第 15 回		成長と機能変化（発育発達期の身体的特徴、心理的特徴）							
定期試験		実施する							
テキスト		適宜、資料を配布する。							
参 考 書 参考資料等		『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』公益財団法人健康・体力づくり事業財団 『Reference Book』公益財団法人日本スポーツ協会							
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他	合 計	
		50%	%	40%	10%	%	%	100%	

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当教員		長谷 亮佑	
公衆衛生学		教員の免許状取得のため の 必修科目		2 単位		担当教員			
						担当形態		単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目							
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育							
授業のテーマ及び到達目標									
1.社会・生活と健康の関連を理解し、説明できる。 2.疫学・保健統計を理解し、説明できる。 3.法律・社会制度を理解し、説明できる。									
授 業 の 概 要									
公衆衛生学について概説したうえで、人口統計及び保健衛生統計、健康教育、保健福祉サービス及び保健福祉事業、保健医療計画などの公衆衛生活動について学修する。また、健康を維持するうえでの生活の役割や慢性疾患など健康の概念について理解するとともに、疾病予防と健康管理や感染症と感染症の予防対策、環境衛生と生活環境について学修する。さらに、学校保健と産業保健、地域保健と国際保健、衛生行政と保健医療の役割や制度について学修する。									
授 業 計 画									
第 1 回		公衆衛生・社会医学とは							
第 2 回		環境と健康							
第 3 回		疫学・保健統計							
第 4 回		予防医学・健康管理							
第 5 回		生活習慣病							
第 6 回		がん							
第 7 回		食事・運動							
第 8 回		睡眠・飲酒・喫煙							
第 9 回		感染症							
第 10 回		地域保健							
第 11 回		産業保健							
第 12 回		保健医療福祉の制度							
第 13 回		国際保健・保健医療の倫理							
第 14 回		まとめ①疫学・保健統計							
第 15 回		まとめ②法律・社会制度							
定期試験		実施する							
テキスト		適宜、資料を配布する。							
参 考 書 参考資料等		鈴木庄亮ほか『シンプル衛生公衆衛生学（2023 年度版）』南江堂							
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他	合 計	
		70%	%	30%	%	%	%	100%	

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当	
学校保健		教員の免許状取得 のための 必修科目		2 単位		教員	川崎 裕美 村瀬 訓生
						形態	オムニバス
科	目	教科及び教科の指導法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標							
1.学校保健の意義、構造、法的根拠を理解できる。 2.児童生徒における現代の健康課題とその対応を説明できる。 3.健康の保持増進に関心を持ち、児童生徒等を想定した保健指導ができる。							
授 業 の 概 要							
学校保健は、児童生徒等および教職員の健康の保持増進を図るとともに、集団教育としての学校教育活動に必用な保健安全的配慮を行い、児童生徒等が自ら健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することを目指している。授業では、学校保健の基礎理論と実際に行われている学校保健活動を学修し、多様化、深刻化する児童生徒の健康課題とその対応に必要な知識と実践力を身に付けることを目的とする。講義形式で授業を進めていくが、授業内容に応じて演習（グループワークとプレゼンテーション）を行い、実践力を確実に身に付けることができるようにする。							
授 業 計 画							
第 1 回	オリエンテーション 学校保健とは：学校保健の概要と法的根拠、学校保健の担当者 学校における健康教育：ヘルスプロモーション、生きる力 (担当：川崎)						
第 2 回	学校保健・安全計画と学校保健組織活動：学校保健計画と学校安全計画の意義、内容、具体例、評価 (担当：川崎)						
第 3 回	保健教育①：保健教育の構造、目標と内容、学習指導要領、保健教育の指導と評価 (担当：川崎)						
第 4 回	児童生徒の発育発達：児童生徒の発育発達の特徴、身体の形態発育と評価、体力・運動能力の発達、保健教育における発育・発達の扱われ方 (担当：川崎)						
第 5 回	健康診断、健康課題と疾病：学校における健康診断の歴史的変遷と目的、保健調査・日常の健康観察、学齢期の疾病・異常等の推移、学校生活において留意すべき子どもの疾病 (担当：川崎)						
第 6 回	学校で注意すべき感染症：学校における感染症対策、出席停止および出席停止期間 (担当：川崎)						
第 7 回	保健室の役割と応急手当：保健室の役割と意義、保健室経営と保健室の機能 (担当：川崎)						
第 8 回	学校における性教育、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育：性に関する現代的課題、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方 (担当：川崎)						
第 9 回	学校給食と食育、保健教育②：児童生徒の食に関する現代的課題、学校における食に関する指導の進め方、対象学年を想定し、性教育、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育、食育に関する教材等を作成（グループワーク） (担当：川崎)						
第 10 回	学校安全・危機管理、学校の環境衛生：子どもを取り巻く危険の実態、学校安全の意義、学校安全教育、学校における環境衛生の重要性と課題 (担当：川崎)						
第 11 回	応急手当の意義 (担当：村瀬)						
第 12 回	応急手当の実際：胸骨圧迫、AED 使用 (担当：村瀬)						
第 13 回	保健教育③：対象学年を想定し、性教育、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育、食育に関する教材等を作成（グループワーク） (担当：川崎)						
第 14 回	保健教育④：作成した教材や発表資料の検討（グループワーク） (担当：川崎)						
第 15 回	保健教育⑤：保健教育の発表、評価 (担当：川崎)						
定期試験	実施する						
テ キ ス ト	適宜、資料を配布する。						
参 考 書 参考資料等	・渡邊正樹編（2020）『学校保健概論 第3版』光生館 ・教員養成系大学保健協議会編（2019）『学校保健ハンドブック第7次改訂』ぎょうせい ・日本学校保健会（2009）『みんなで進める学校での健康づくり～ヘルスプロモーションの考え方を生かして～』千葉印刷						
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	授業の振り返り	合 計
	40%	20%	%	20%	%	20%	100%

授業科目名	必修/選択		単位数	担当 教員名	坂東 智子		
初等国語科 教育法	教員の免許状取得のための 必修科目		1 単位	担当 形態	単独		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小二種免）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 「国語（書道を含む。）」					
授業のテーマ及び到達目標							
小学校教員免許を取得し教員としての基本的な知識及び技能を身につける。 （１） 小学校学習指導要領国語科の目標・内容を理解し、小中の系統性について説明することができる。 （２） 教材研究を行い、授業を構想して学習指導案を作成することができる。 （３） 模擬授業や授業研究を通して、授業を改善することができる。							
授業の概要							
小学校国語科の学習指導要領の目標・内容、小中の系統性を理解し、学習者把握の仕方、授業構想、 学習指導案の作成を行い、模擬授業を実施し、授業改善を行うことで、教員としての基本的な知識及 び技能を身につける。							
授業計画							
第 1 回	言葉の力と国語の力（講義・演習）						
第 2 回	学習指導要領における国語科の目標と内容構成（講義）						
第 3 回	学習者の発達段階と国語科の指導内容の系統性、書写の指導（講義・演習）						
第 4 回	教材研究の方法（講義・演習）						
第 5 回	授業設計と情報機器の活用（講義・演習）						
第 6 回	学習指導案の作成（講義・演習）						
第 7 回	模擬授業と授業分析（演習）						
第 8 回	授業研究と授業の改善（講義・演習）						
定期試験	筆記試験を実施						
テキスト	必要に応じて資料を配付します。						
参考書・ 参考資料等	小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年 7 月 文部科学省） 適宜、必要に応じて資料を配付します。						
学生に 対する評価	試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
	5 0 %		5 0 %				1 0 0 %

授業科目名	必修/選択	単位数	担当 教員名	大坂 遊
初等社会科 教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	1 単位	担当 形態	単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小二種免）			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）「社会」			
授業のテーマ及び到達目標				
小学校社会科における教育の目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。具体的な到達目標は以下の通りである。 （１） 学習指導要領に示された小学校社会科の目標や内容を説明できる。 （２） 小学校社会科に関する基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した 授業設計を行うことができる。 （３） 小学校社会科を指導する上で必要となる、他の教科や校種との連携のあり方、カリキュラム・マネジメントのあり方、評価と授業改善のあり方について説明できる。				
授業の概要				
小学校社会科教育の目標である公民的資質の育成について確認した上で、小学校の社会科で扱われる教科の内容・教材・学習指導・評価のあり方について、現在の学習指導要領で求められる重要な概念と重ね合わせながら学修する。あわせて、小学校社会科教育の歴史や実践上の課題、教師に求められる態度や専門性についても検討を行う。				
授業計画				
第 1 回	小学校社会科教育の意義と課題ー著名な実践を通して考えるー			
第 2 回	小学校社会科教育の構造、目標論・学力論ー著名な実践を通して考えるー			
第 3 回	小学校社会科の学習指導計画づくりと教師の役割ー著名な実践を通して考えるー			
第 4 回	小学校社会科第3学年の学習指導と評価ーカリキュラム・マネジメントの視点から考えるー			
第 5 回	小学校社会科第4学年の学習指導と評価ー主体的・対話的で深い学びの視点から考えるー			
第 6 回	小学校社会科第5学年の学習指導と評価ーICTを活用した学びの視点から考えるー			
第 7 回	小学校社会科第6学年の学習指導と評価ー個別最適な学びと協働的な学びの視点から考えるー			
第 8 回	小学校社会科の評価と授業改善ー模擬授業の実施を通して考えるー			
定期試験	実施しない			

テキスト	・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』日本文教出版、2018年						
参考書・ 参考資料等	・社会認識教育学会編『小学校社会科教育』学術図書出版社、2019年 ・原田智仁編著『初等社会科教育の理論と実践』教育情報出版、2022年						
学生に 対する評価	試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
			40%	20%		40%	100%

※その他40%はコメントシートによる評価

授業科目名	必修/選択	単位数	担当 教員名	鷹岡 亮
初等算数科 教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	1 単位	担当 形態	単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小二種免）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）「算数」		
授業のテーマ及び到達目標				
(1) 算数科の歴史や目標，内容や教育的価値を理解すること。 (2) 4つの領域(数と計算，量と測定，図形，数量関係)の数学的な知識を理解すること。 (3) 子どもの算数に対する興味・関心や認知特性を心理学的視点から理解すること。 (4) 授業づくりや模擬授業などの活動を通して基礎的な算数指導の考え方と知識やスキルを習得できること。 (5) 算数科の評価方法に関する知識を理解すること。 (6) 学習指導計画作成の意義および各指導計画の作成要点を理解し，学習指導案を作成することができること。 (7) 算数科の現代的課題に目をむけ，常に授業を改善しようとする態度を身につけること。 (8) 自分が有している課題を他者と共有し，協働して解決していこうとする態度を身につけること。				
授業の概要				
算数科では何を教えれば(何を学んでもらえれば)よいのでしょうか。「はい。与えられた計算問題や文章題，図形問題を解くことができるように，計算の手続き，文章題の解き方，図形の定義や性質を子ども達に教えればよいと思います。」これが解答でよいのでしょうか？ 算数科の学習では，算数的活動を通して，数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるだけでなく，思考力や表現力，さらに，算数的活動の楽しさ，数理的な処理の良さに気づいてもらうことが目標になっています。将来，このような算数科の授業(学習)を実践するために，皆さんは，数学的な知識を獲得することはもちろん，算数科の歴史や教育的価値を学び，子どもの算数に対する興味・関心や認知特性を心理学的視点から理解し，算数指導の考え方と知識・スキルを習得することが必要となります。さらに，算数科の現代的課題に目をむけ，常に授業を改善しようとする態度を有していかなければなりません。 そこで，この授業では，最初に，算数の授業あるいは算数を学んでいる子ども達の興味・関心，考え方のイメージを具体的な授業実践や事例を通して受講者の皆さんに持ってもらいます。そして，残りの授業時間で，4つの領域(数と計算，量と測定，図形，数量関係)の数学的な知識の理解，子どもの算数の理解の仕方，さらに，授業づくりや模擬授業などの活動を通して基礎的な算数指導の考え方と知識の習得を行っていききたいと思います。				

授業計画							
第1回	授業オリエンテーション、「算数をなぜ勉強しなくてはいけないの？」に回答する						
第2回	算数授業における子どもたちの学習イメージをつくる、こどもの理解の仕方を考える						
第3回	情報通信技術の効果的な活用した授業のつくりかた、学習指導計画と学習指導案を考える						
第4回	算数科の指導方法と評価方法を考える、教育実習における算数指導の課題						
第5回	「数と計算」領域を理解する、「数と計算」領域の教材研究を通して授業展開を考える						
第6回	「量と測定」領域を理解する、「量と測定」領域の教材研究を通して授業展開を考える 「数量関係」領域の教材研究を通して授業展開を考える						
第7回	「図形」領域を理解する、「図形」領域の教材研究を通して授業展開を考える						
第8回	模擬授業と授業分析及び改善						
定期試験	筆記試験を実施						
テキスト	『小学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編』文部科学省						
参考書・ 参考資料等	『新編 算数科教育研究 改訂版』算数科教育学会編、学芸図書 『授業過程の理解』多鹿秀継編著、北大路書房 『教科理解の認知心理学』鈴木宏明他著、新曜社						
学生に 対する評価	試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
	10%	20%	20%	10%		40%	100%

※その他40%は、授業態度・授業への参加度20%、演習20%

授業科目名	必修/選択	単位数	担当 教員名	重松 宏武
初等理科 教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	1 単位	担当 形態	単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小二種免）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）「理科」		
授業のテーマ及び到達目標				
小学校の理科の学習指導内容について、実験や観察を通して理科の授業において必要とされる基礎的な知識や技能を習得し、理科の指導者に求められる資質能力を身に着けることができるようになる。さらに、小学校における自然科学教育としての理科の授業の意義や価値について理解を深めることができるようになる。具体的な到達目標は以下の通りである。 （１） 小学校の理科で扱う学習内容について理解することができる。 （２） 自然に関する課題に対して仮説を立て論理的に思考することができる。 （３） 身の回りの自然現象に興味や関心を持つことができる。 （４） 自然に関する課題に対してまわりと協調的に取り組むことができる。 （５） 課題を科学的に適切な方法でまとめ発表報告することができる。				
授業の概要				
小学校の理科で扱われる学習指導内容を中心にとりあげ、指導者として必要とされる自然科学における基礎的な知識や技能を習得するための学習を講義形式で授業を行う。さらに、実際に小実験や観察を行うことを通して、理科の授業における児童の活動を想定した実験手法や指導法、指導上の留意点（安全教育）などについても理解を深める。				
授業計画				
第 1 回	ガイダンス：初等理科教育法のねらいと意義			
第 2 回	小学校理科の目標と内容			
第 3 回	小学校理科の学習指導と評価の在り方			
第 4 回	教材研究と指導法①（「エネルギー」と「粒子」）			
第 5 回	教材研究と指導法②（「生命」と「地球」）			
第 6 回	学習指導案の作成と授業設計（安全教育、ICT活用も含む）			
第 7 回	小学校理科模擬授業の実施と振り返り			
第 8 回	講義の総括			
定期試験	筆記試験を実施			
テキスト	特になし。必要に応じて資料を配布する。			
参考書・ 参考資料等	・『小学校学習指導要領解説-理科編（平成29年告示）』（文部科学省）東洋館出版社			

	・『初等理科教育法』磯崎哲夫 編著 学校図書						
学生に 対する評価	試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
	40%		30%	30%			100%

授業科目名		必修/選択		単位数	担当 教員名	藤上 真弓	
初等生活科 教育法		教員の免許状取得のための 必修科目		1 単位	担当 形態	単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小二種免）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）「生活」					
授業のテーマ及び到達目標							
生活科の原理・果たすべき役割の理解、実践化につながる視点や方法等の理解 （１） 生活科の教育理念や教育原理、目標、内容、方法、課題等や、生活科の意義や果たすべき役割について、資質・能力の育成の視点から理解している。 （２） 生活科における主体的・対話的で深い学びを生み出すための、単元計画や授業づくりに必要な視点や方法、考え方等について理解している。 （３） 気付きの質を高める教師の手立てや生活科における評価方法について理解している。							
授業の概要							
本講義は、生活科の設立経緯と背景、教育理念や教育原理、生活科の目標、育成を目指す資質・能力について理解しながら生活科教育の重要性についてとらえるとともに、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を通じて、実践化を図るための資質・能力を高める講義を行う。							
授業計画							
第 1 回	生活科設立の経緯と趣旨						
第 2 回	生活科の教育理念、教育原理						
第 3 回	生活科の目標・内容・評価						
第 4 回	生活科の特性に関する教材研究						
第 5 回	生活科の授業づくりのポイント 1：生活科における活動や体験の意義						
第 6 回	生活科の授業づくりのポイント 2：生活科における教師の役割						
第 7 回	生活科の授業づくりのポイント 3：適切な環境設定や情報機器等の活用						
第 8 回	生活科の授業づくりのポイント 4：生活科の指導案及び模擬授業の実施						
定期試験	筆記試験を実施						
テキスト	・文部科学省「小学校学習指導要領解説生活編」、東洋館出版社、2018						
参考書・ 参考資料等	・国立教育政策研究所教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料小学校生活」、東洋館出版社、2020						
学生に 対する評価	試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
	60%		25%	10%		5%	100%

※その他 5 %は、授業の態度・授業への参加度 [グループ活動、発表等]

授業科目名	必修/選択		単位数	担当 教員名	高橋 雅子		
初等音楽科 教育法	教員の免許状取得のための 必修科目		1 単位	担当 形態	単独		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小二種免）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）「音楽」					
授業のテーマ及び到達目標							
小学校音楽科における『学習指導要領』の理解を深め、教科の分野・領域の特質を生かした知識・技能を修得することを目指す。							
授業の概要							
本授業は、小学校における教科内容（音楽）を指導する際に必要な知識や技能に関する講義・演習を行う。さらに指導案作成・模擬授業を通じて、学習課題に則した実践的な指導技術の獲得を目指す。							
授業計画							
第 1 回	オリエンテーション：『学習指導要領』と小学校音楽科の内容構成						
第 2 回	教材研究・情報通信技術の効果的な活用法						
第 3 回	指導計画と授業づくり 1：音楽の授業とは						
第 4 回	指導計画と授業づくり 2：指導案の書き方						
第 5 回	鑑賞領域の理論と指導法／模擬授業						
第 6 回	表現領域（歌唱）の理論と指導法／模擬授業						
第 7 回	表現領域（器楽・音楽づくり）の理論と指導法／模擬授業						
第 8 回	諸民族の音楽と日本の音楽／模擬授業						
定期試験	実施しない						
テキスト	・『教員養成課程 小学校音楽科教育法（2022年度改訂版）』教育芸術社						
参考書・ 参考資料等	・『小学校学習指導要領解説 音楽編』、小学校音楽科検定教科書						
学生に 対する評価	試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
			40%	30%		30%	100%

※その他30%は、授業への取組

授業科目名		必修/選択		単位数	担当 教員名	吉田 貴富	
初等図画工作科 教育法		教員の免許状取得のための 必修科目		1 単位	担当 形態	単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小二種免）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）「図画工作」					
授業のテーマ及び到達目標							
普通教育における美術教育の基礎的必須事項、即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。							
授業の概要							
初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等について、講義、調べ学習、対話等を通して理解する。							
授業計画							
第 1 回	イントロダクション。教師の専門性について考える。教科教育の重要性。						
第 2 回	普通教育としての美術教育の目的。図画工作科で培われる能力とは。						
第 3 回	子どもたちを理解する。児童画の特徴と発達段階。 図画工作科における教材研究。						
第 4 回	美術教育史（１）明治の図画教育。その目的と内容・方法。						
第 5 回	美術教育史（２）美術教育の変革。チゼックと山本鼎。臨画からの転換。						
第 6 回	図画工作科の内容及び情報通信技術の効果的な活用法。授業設計と学習指導案の作成。						
第 7 回	鑑賞。鑑賞の必要性。対話型鑑賞のファシリテーションのポイント。						
第 8 回	図画工作科の評価。結果としての作品だけを評価するのではなく。 模擬授業の実施と改善						
定期試験	筆記試験を実施						
テキスト	必要に応じて資料を配付します。						
参考書・ 参考資料等	必要に応じて資料を配付します。参考図書は授業にて紹介します。						
学生に 対する評価	試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
	70%		20%			10%	100%

※その他 10%は、授業への参加度（発言等）

授業科目名		必修/選択			単位数	担当 教員名	西 敦子	
初等家庭科 教育法		教員の免許状取得のための 必修科目			1 単位	担当 形態	単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小二種免）						
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）「家庭」						
授業のテーマ及び到達目標								
家庭科教育に対する関心・意欲を高めるとともに、学習指導要領に示された目標・内容を理解できる。その上で、家庭科教材研究の方法や学習指導法を理解し、教材の収集ができるようになるとともに、児童の実態に即した授業づくりの方法を習得できる。								
授業の概要								
小学校家庭科の学習指導要領をもとに、歴史的変遷をたどることで教科の特徴を概観するとともに、家庭科授業の目標、内容、教材、学習指導法について学びます。								
授業計画								
第 1 回	家庭科とは何か～これまでの学習経験を振り返り、自分の家庭科観を捉える							
第 2 回	小学校学習指導要領の変遷及び家庭科の目標、内容の理解							
第 3 回	学習指導案の作成と評価							
第 4 回	ロールプレイングを用いた家族の学習と教材について探求する							
第 5 回	シミュレーション、ゲームを用いた食生活の学習と教材について探求する							
第 6 回	実習・実験を用いた衣生活の学習と教材について探求する							
第 7 回	情報機器を活用した住生活の学習と教材について探求する							
第 8 回	模擬授業と授業分析							
定期試験	筆記試験を実施							
テキスト	・『小学校学習指導要領の解説 家庭編』平成29年告示 文部科学省 ・『小学校家庭科教科 わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂 令和6年文部科学省検定済							
参考書・ 参考資料等	・伊藤圭子編著『「気になる子ども」と共に学ぶ家庭科』開隆堂、2017 ・多々納道子、伊藤圭子編著『実践的指導力をつける家庭科教育法』大学教育出版 2018 ・そのほか授業内で適宜紹介します。							
学生に 対する評価	試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計	
	80%					20%	100%	

※その他20%は、授業参加度

授業科目名	必修/選択		単位数	担当	瀬尾 賢一郎		
初等体育科 教育法	教員の免許状取得のための 必修科目		1 単位	教員名	湯浅 理枝		
				担当 形態	複数		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小二種免）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）「体育」					
授業のテーマ及び到達目標							
(1) 体育授業（初等）における「目的」「内容」「方法」「評価」の一貫性について理解できる。							
(2) 体育（初等）の「教科内容」「教材」「教具」について理解し、説明ができる。							
(3) 体育（初等）における授業づくりの仕組みと方法がわかる。							
授業の概要							
体育科における指導上の課題ならびに児童一人一人に応じた指導のあり方を考え、小学校学習指導要領体育編に示されている各学年の目標や主要な運動領域の内容を取り上げ、実際の学習指導案づくりをとおして体育科の指導方法を学ぶ。また、実際の模擬授業をとおして、学習指導上のポイントや個に応じた指導のあり方を理解する。							
授業計画							
第 1 回	小学校体育科の目標と各運動領域の理解						
第 2 回	児童の発達および今日的課題と体育科の教材研究						
第 3 回	学習指導案の作成および学習評価						
第 4 回	体育科における指導方法と指導上の課題（体づくり運動・表現運動・器械運動）						
第 5 回	体育科における指導方法と指導上の課題（陸上運動・水泳運動）						
第 6 回	体育科における指導方法と指導上の課題（ボール運動）						
第 7 回	体育科における情報通信技術の効果的な活用法						
第 8 回	模擬授業と授業分析						
定期試験	筆記試験を実施						
テキスト	・文部科学省/小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編/東洋館出版社 ・木原成一郎・大後戸一樹・久保研二・村井潤/改訂版初等体育科教育の研究/学術図書出版社						
参考書・ 参考資料等	・高橋 健夫・友添 秀則・岩田 靖・岡出 美則 編著/新版体育科教育学入門/大修館書店						
学生に 対する評価	試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
	5 0 %		2 0 %			3 0 %	1 0 0 %

※その他30%は、学習指導案20%、授業に対する意欲・態度10%

授業科目名		必修/選択		単位数	担当	西村 浩子	
初等英語科 教育法		教員の免許状取得のための 必修科目		1 単位	教員名	川崎 眞理子	
					担当 形態	複数	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小二種免）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）「外国語」					
授業のテーマ及び到達目標							
(1) 小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の授業を行うため、学習指導要領ならびに指導・評価に関する基本的な知識や理論を学ぶ。							
(2) 学んだことを基に模擬授業を行い実践的な技術を身に付ける。							
授業の概要							
学習指導要領に基づき小学校の外国語活動・外国語科の目的・目標・理念を学び、小・中・高の外国語教育における小学校の役割を理解する。発達段階による興味関心の差異が大きい小学生に対し学齢に適した授業を計画するために、第二言語習得研究の成果や臨界期（敏感期）仮説の基礎的な知識ならびに外国語の授業で利用できる指導法などを学ぶ。その上で教材研究、学習指導案の作成の仕方、評価のあり方について学習し、実際に模擬授業を行うことによって実践的な指導技術を身に付ける。							
授業計画							
第 1 回	オリエンテーション、小学校の外国語活動・外国語科の目的・目標・理念						
第 2 回	第二言語習得と臨界期仮説						
第 3 回	4 技能の指導とさまざまな指導法（ICTの効果的な活用法を含む）						
第 4 回	うた、チャンツ、絵本、異文化理解の指導						
第 5 回	クイズ、ゲーム、自己表現活動の指導						
第 6 回	学習指導案の作成と評価						
第 7 回	ALTとのティーム・ティーチングによる指導の在り方						
第 8 回	模擬授業およびピア評価（外国語活動、外国語科）						
定期試験	実施しない						
テキスト	・『小学校英語教育法入門』（樋口他，2023）、『Let' s Try! 1』『Let' s Try! 2』『New Horizon Elementary 5,6』（東京書籍） ・『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動編、外国語編』開隆堂						
参考書・ 参考資料等	必要に応じて資料を配付します。						
学生に 対する評価	試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
		4 0 %	3 0 %	2 0 %		1 0 %	1 0 0 %

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	大坂 遊 中嶋 克成	
教職ボランティア 実習		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単 位			担当 形態	複数
科 目		大学が独自に設定する科目						
授業のテーマ及び到達目標								
この科目は、教職課程の履修学生が参加する「介護等の体験」の事前指導として、体験に必要な知識・技能、そして体験に向かうにふさわしい態度を、講義や演習を通して習得することを目的とします。「介護等の体験」は、教育職員免許法の特例等に関する法律改正によって平成 10 年度から義務付けられたもので、中学校教員免許を取得する者は原則として特別支援学校で 2 日間、社会福祉施設等で 5 日間の体験を行うことが必要となっています。2 日間の特別支援学校では介護及び介助、児童生徒の話し相手や付き添い等、また掃除・洗濯等の職員に必要とされる業務の補助などを体験します。5 日間の社会福祉施設では、障害者・高齢者等に対する介護・介助や職員に必要とされる業務の補助などを体験します。 【到達目標】 (i) 介護等の体験の制度的・社会的・教育的意義が理解できている。 (ii) 介護等の体験に関連する用語や概念を理解し、体験で求められる基礎的な技能を習得できている。 (iii) 障害者や高齢者など社会的弱者の置かれている状況と、それを支援する人の心境を理解できている。 (iv) 介護等の体験に主体的・意欲的に参加し、その成果や課題をレポートにまとめることができている。								
授 業 の 概 要								
大学の授業（事前指導）では介護等体験に係る講義（座学・講演・映像教材視聴等）、演習（グループワーク・体験・ワークショップ等）、書類の記入等を行い、授業時間外の定められた期間に実習（介護等の体験）を行います。								
授 業 計 画								
第 1 回	オリエンテーション：介護等体験で何を学ぶのか							
第 2 回	書類作成・証書の準備①：特別支援学校編							
第 3 回	書類作成・証書の準備②：社会福祉施設編							
第 4 回	教員養成における介護等体験の意義①：子ども理解・人間理解、開かれた学校づくり、教育実習と介護等体験の違い							
第 5 回	教員養成における介護等体験の意義②：社会的弱者と福祉政策のあり方を考える							
第 6 回	特別支援学校①：特別支援教育、特別支援学校について知る							
第 7 回	特別支援学校②：ポスターツアーの実施							
第 8 回	介護・介助体験①：高齢者疑似体験							
第 9 回	介護・介助体験②：車いす利用体験							
第 10 回	介護・介助体験③：介護・介助技術の習得							
第 11 回	社会福祉施設①：社会福祉、社会福祉施設について知る							
第 12 回	社会福祉施設②：ポスターツアーの実施							
第 13 回	外部講師の講演：特別支援、介護に関する当事者の話を聞く							
第 14 回	学校での特別支援教育の事例を考える：ケースメソッドによる学習							
第 15 回	介護等体験の事後指導（実習のふりかえり、まとめ）							
定期試験	なし							
テ キ ス ト		・現代教師養成会 編『教師をめざす人の介護等の体験ハンドブック 五訂版』大修館書店、2020 ・全国社会福祉協議会 編『よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック 第5版』 全国社会福祉協議会、2018						
参 考 書 参考資料等		・全国特別支援学校長会全国特別支援教育推進連盟 編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』ジエース教育新社、2020 ・庄司和史著『介護等体験安心ハンドブック』学事出版、2018 ・中瀬浩一、井上智義著『特別の教育的ニーズがある子どもの理解 介護等体験でも役立つ知識と技能』樹村房、2018						
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 (講義中の課題)	合 計
			20%	40%	20%	20%		100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数	担当 教員	瀬尾 賢一郎		
学校体験活動		教員の免許状取得のための 選択科目		2 単 位	担当 形態	単独		
科	目	大学が独自に設定する科目						
授業のテーマ及び到達目標								
小学校、中学校、高等学校の教諭を目指す学生が、学校で生活する児童生徒の姿や教職員の業務活動を観察するとともに、実務に対する補助的な役割を担うことを通して、児童生徒の実態と学校教育活動の特色を理解する。 ①学校教育現場での授業、特別活動、学校行事、部活動など教員の日常業務を観察、体験し、教育活動の実際の、具体的理解を深める。 ②上記①を体験することにより、自己の適性を把握し、将来の職業生活への見通しを立てる。 ③児童生徒および教職員と関係構築の中で、人間的成長や社会意識の向上を目指す。								
授 業 の 概 要								
学内における「講義」と学外における「実践活動」の組み合わせで行います。学外における「実践活動」の日時は固定されていません。授業は、周南市内の小・中学校を対象とした体育授業を運営することです。対象となる小・中学校の時間割により、必ずしも授業開講時間と同一時間にならないケースも生じてきます。成果報告を含めて2単位時間分の活動を行います。								
授 業 計 画								
第 1 回	オリエンテーション ・学校インターンシップの目的、概要説明 ・コミュニティ・スクールの理解							
第 2 回	事前指導① ・学校支援、学校運営、地域貢献の理解 ・事故やケガへの対応について ・学校における守秘義務について							
第 3 回	事前指導② ・実施校の決定 ・活動計画書作成 ・振り返りシートへの記入の仕方							
第 4～8 回	担当校での実習①～⑤ ・各実施校での実践 ・毎回振り返りシート記入							
第 9 回	前期中間報告会 ・実習①～⑤を振り返って発表 ・意見交換 ・各自の課題を発見し発表							
第10～14回	担当校での実習⑥～⑩ ・各実施校での実践 ・毎回振り返りシート記入							
第 15 回	活動報告会 ・実習①～⑩を振り返って発表 ・意見交換 ・後期に向けての課題を発見し発表 ・教員からの講評							
第 16 回	事前指導③ ・注意すべき事項の確認							
第 17 回	事前指導④ ・振り返り作業の確認 ・報告会でのプレゼンテーションの予告							
第18～23回	担当校での実習⑪～⑯ ・各実施校での実践 ・毎回振り返りシート記入							
第 24 回	後期中間報告会 ・実習⑪～⑯を振り返って発表 ・意見交換 ・各自の課題を発見し発表							
第25～28回	担当校での実習⑰～⑳ ・各実施校での実践 ・毎回振り返りシート記入							
第 29 回	事後指導 ・振り返り作業 ・活動報告会発表準備							
第 30 回	活動報告会 ・プレゼンテーションの実施 ・教員からの講評							
定期試験	なし							
テキスト		なし						
参 考 書 参考資料等		・文部科学省 中学校学習指導要領 平成 29 年 7 月 ・文部科学省 高等学校学習指導要領平成 30 年 7 月 ・国立教育政策研究所 教育課程研究センター「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校・保健体育）令和 2 年 3 月 東洋館出版社 ・国立教育政策研究所 教育課程研究センター「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校・保健体育）令和 3 年 8 月 東洋館出版社						
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 （講義中の課題）	合 計
			%	40%	40%	%	20%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	新井 誠	
日本国憲法		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単 位		担当 教員	新井 誠	
						担当 形態	単独	
科	目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目						
施行規則に定める 科目区分等		・ 日本国憲法						
授業のテーマ及び到達目標								
この講義では、憲法にかかわる身近な問題を提示しながら、憲法の意味や歴史、さらには人権や統治機構の諸問題について学習し、「日本国憲法」の基礎知識を身につけることをねらいとしている。								
【到達目標】								
①「日本国憲法」をめぐる基礎的用語とその内容を理解し、説明できる。								
②憲法に定める人権保障・統治機構に関する学説・判例について理解し、説明できる。								
③憲法をめぐる諸問題をめぐって、冷静な視点で論理的に考え、あるべき解決方法を見出すことができる。								
授 業 の 概 要								
講義形式。ただし講義中に適宜、学生の意見を求める場合がある。講義は以下の授業計画に沿って行う予定であるが、進行により内容を一部変更する場合がある。								
授 業 計 画								
第 1 回	「日本国憲法」を学ぶための基礎知識①							
第 2 回	「日本国憲法」を学ぶための基礎知識②							
第 3 回	幸福追求・プライバシーをめぐる問題							
第 4 回	法の下での平等をめぐる問題①							
第 5 回	法の下での平等をめぐる問題②							
第 6 回	思想・良心の自由をめぐる問題							
第 7 回	表現の自由をめぐる問題①							
第 8 回	表現の自由をめぐる問題②							
第 9 回	信教の自由・政教分離をめぐる問題							
第 10 回	経済的自由をめぐる問題							
第 11 回	生存権をめぐる問題							
第 12 回	民主主義を実現するための制度（選挙権と選挙制度）をめぐる問題							
第 13 回	国会と内閣をめぐる問題							
第 14 回	裁判所と地方自治をめぐる問題							
第 15 回	憲法をめぐる新しい問題・おわりに							
定期試験	実施する							
テ キ ス ト		授業中に指示する。						
参 考 書 参考資料等		授業中に適宜、配布する。						
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他 (講義中の課題)	合 計
		70%	%	%	%	%	30%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	松崎 守利	
健康とスポーツ		教員の免許状取得のための 必修科目		2	単 位	担当 教員	松崎 守利	
						担当 形態	単独	
科	目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目						
施行規則に定める 科目区分等		・体育						
授業のテーマ及び到達目標								
「健康とは何か？」という問いは、これからの未来社会を生きていこうとする諸君にとって今後切っても切れない課題である。IT 普及社会における子どもの体力低下抑止、社会保障負担の軽減などが喫緊の課題とされる一方、遺伝子工学の発展やトップスポーツの興隆が目覚ましいこの時代の中でこの問いへの答えを見つけるためには、幅広い「教養としての健康・スポーツ科学」の知識が必須となるであろう。本講義では、運動・栄養・休養の 3 つの観点から健康・スポーツ科学に関する教養の幅と深さを広げ、主体的に課題解決に取り組むための基盤を築くことを目標とする。								
授 業 の 概 要								
パワーポイントや映像資料を用いた双方向の講義形式とする。必要に応じて随時資料を配布する。毎回、講義内容に関するテーマをこちらから提示し、自身の考えや意見、疑問・質問・要望などを小レポートとして提出してもらう。疑問や質問については、Teams の機能を利用して、担当者と履修者全員が参加する自由なディスカッション形式によって答えを探っていく。								
授 業 計 画								
第 1 回	【オリエンテーション】 健康とスポーツについて							
第 2 回	【健康・スポーツ概論】 健康の考え方、健康増進の施策、運動・スポーツの健康効果							
第 3 回	【健康・スポーツ実践】 健康・スポーツによる行動変容、マーケティング、イベントとツーリズム							
第 4 回	【健康・スポーツビジネス】 健康・スポーツ産業と組織、ビジネスとメディア							
第 5 回	【健康・スポーツ文化】 健康・スポーツの歴史と文化							
第 6 回	【健康・スポーツに関連する生体の構造と機能①】 骨格筋の構造と機能、適応と変化、神経機構							
第 7 回	【健康・スポーツに関連する生体の構造と機能②】 身体組成の評価法、身体運動の動作分析（バイオメカニクス）							
第 8 回	【健康・スポーツ生理学①】 身体運動と循環・代謝機能、脳と精神活動（健康・スポーツと睡眠）							
第 9 回	【健康・スポーツ生理学②】 身体運動と免疫機能、発育発達							
第 10 回	【健康・スポーツ栄養学】 身体作り・動力源としての栄養、摂取と代謝							
第 11 回	【スポーツ外傷・障害①】 スポーツに伴う急性外傷、応急処置法、心肺蘇生法							
第 12 回	【スポーツ外傷・障害②】 スポーツに伴う慢性障害、内科的障害							
第 13 回	ストレッチングの理論と方法							
第 14 回	筋力トレーニングの理論と方法							
第 15 回	持久力トレーニング、メンタルトレーニングの理論と方法							
定期試験		実施する						
テキスト		なし						
参 考 書 参考資料等		・「教養としてのスポーツ科学」（早稲田大学スポーツ科学学術院 編、大修館書店） ・「これからの健康とスポーツの科学」（安部孝・琉子友男 編、講談社）						
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 （講義中の課題）	合 計
		50%	20%	20%	%	%	10%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	江崎和希・小野高志 坪井恭紀・中嶋 健 西山健太・水崎佑毅 瀬尾賢一郎・岡井里香 宇野直士・大庭尚子 西 博史
教養スポーツ 実習Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目		1 単 位			担当 形態
科 目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分等		・体育					
授業のテーマ及び到達目標							
生涯にわたって健康的な生活を主体的に送るために、スポーツ活動を通じた健康づくりの基礎知識、実践力の修得を目指します。また身体的な健康だけでなく、精神的な健康および社会的な健康づくりのために、スポーツ活動を通じた多種多様な交流を行い、言語的・非言語的コミュニケーションスキルの向上を目指します。							
授 業 の 概 要							
健康に対して主体的な意識を醸成するために、教養スポーツ実習Ⅰのはじめに体力測定を行います。体力測定のデータを健康指標とし、授業の中で学んだことを実生活場面に応用しながら、心身の変化を感じてもらいます。また、スポーツ活動の中で、基礎的な技能向上と知識修得を重視していきます。その効果を高めるために、集団の円滑なコミュニケーション、協調性、あるいはリーダーシップの向上を促進する体づくり・体ほぐしの活動を取り入れていきます。							
授 業 計 画							
第 1 回	オリエンテーション 運動経験の振り返りと運動の心身に対する効果を考える。						
第 2 回	体力測定						
第 3 回	基礎体力の向上Ⅰ（ストレッチ法やウォーキング、アイスブレイク等）						
第 4 回	基礎体力の向上Ⅱ（トレーニング方法の立案、ジョギング、チームビルディング等）						
第 5 回	基礎体力の向上Ⅲ（ストレッチボールや縄跳びなどの道具を使った運動）						
第 6 回	ニューススポーツ体験（アルティメット）						
第 7 回	ニューススポーツ体験（ドッチビー）						
第 8 回	ニューススポーツ体験（インディアカ）						
第 9 回	ニューススポーツ体験（ソフトバレーボール）						
第 10 回	ニューススポーツ体験（ペタンク）						
第 11 回	ニューススポーツ体験（ショートテニス）						
第 12 回	ニューススポーツを考える（企画編）						
第 13 回	ニューススポーツを考える（発表編）						
第 14 回	ニューススポーツを考える（実践編）						
第 15 回	まとめ これまで学んだ内容を振り返り、今後の運動計画を考える。						
定期試験	なし						
テキスト	なし						
参 考 書 参考資料等	NEW スポーツを学ぼう！2 ゴールをねらうニューススポーツ 高橋義雄 ベースボールマガジン社 そのほか適宜、授業内で紹介する。						
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 (講義中の課題)	合 計
	%	%	%	60%	%	40%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	Travas CAMPBELL Darcy DWYER Shauna HALL Tracy SCOTT	
英会話初級Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目 (人間健康科学部スポーツ健康科学科)		1 単 位			担当 形態	クラス分け・単独
科	目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目						
施行規則に定める 科目区分等		・外国語コミュニケーション						
授業のテーマ及び到達目標								
この授業は英会話スキルの向上を目的とします。英語を母国語として話す先生といっしょに、日常生活に根ざした話題の会話をしながら基礎的な語彙・表現を学びます。幅広いペアワークやグループワークを通して、会話中にわからないことがあったときの質問のしかたや相手の言ったことの確認のしかたを学び、英語で聞く・話すことにもっと自信が持てるようになることが重要です。 【到達目標】 ①簡単な語を使って繰り返しや言い換えをしながら話して、身近な話題についての話や質問を理解できる。 ② 簡単な語を使って、身近な話題についての質問に答えられる。								
授 業 の 概 要								
授業はテキストに沿って、まずそのユニットのテーマに関連する単語と表現を学び、次にペアやグループでさまざまな会話練習（リスニング、スピーキング）をします。他の人と英語を聞いたり話したりするほかに、そのユニットで学習した語彙や文法事項のふり返しなどをひとりでやっていただく活動もあります。								
授 業 計 画								
第 1 回	オリエンテーションと自己紹介							
第 2 回	1B: Personal Information 個人情報に関する会話							
第 3 回	2A: What do they look like? どんな人にみえる？							
第 4 回	2B: Your personality 性格の特徴の説明							
第 5 回	3A: What are your interests? 興味のあること、趣味について話そう							
第 6 回	3B: What sports do you like? 熱中しているスポーツについて話そう							
第 7 回	4A: Families 家族のことを話してみよう							
第 8 回	4B: Friends 友達のことについて話そう							
第 9 回	5A: Shopping and Clothing 買い物のときに使う英会話							
第 10 回	5B: Saving and Spending 収入と支出について話してみよう							
第 11 回	6A: How was your trip? 過去に行った旅行について話そう							
第 12 回	6B: Traveling near and far 観光名所について話そう							
第 13 回	7A: Eating out 食生活について話そう							
第 14 回	7B: Food around the world 世界の食べ物について							
第 15 回	Final Review 語彙、文法、表現の復習							
定期試験	実施する							
テキスト		Leo Jones 著 「LET'S TALK STUDENT'S BOOK 1」 Cambridge University Press						
参 考 書 参考資料等		なし						
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 (講義中の課題)	合 計
		50%	%	%	%	%	50%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	Travas CAMPBELL Darcy DWYER Shauna HALL Tracy SCOTT		
英会話初級Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目 (人間健康科学部スポーツ健康科学科)		1 単 位			担当 形態		クラス分け・単独
科	目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目							
施行規則に定める 科目区分等		・外国語コミュニケーション							
授業のテーマ及び到達目標									
この授業は英会話スキルの向上を目的とします。英語を母国語として話す先生といっしょに、日常生活に根ざした話題の会話をしながら基礎的な語彙・表現を学びます。幅広いペアワークやグループワークを通して、会話中にわからないことがあったときの質問のしかたや相手の言ったことの確認のしかたを学び、英語で聞く・話すことにもっと自信が持てるようになることが重要です。 【到達目標】 ①簡単な語を使って繰り返しや言い換えをしながら話して、身近な話題についての話や質問を理解できる。 ② 簡単な語を使って、身近な話題についての質問に答えられる。									
授 業 の 概 要									
授業はテキストに沿って、まずそのユニットのテーマに関連する単語と表現を学び、次にペアやグループでさまざまな会話練習（リスニング、スピーキング）をします。他の人と英語を聞いたり話したりするほかに、そのユニットで学習した語彙や文法事項のふり返しなどをひとりでやっていただく活動もあります。									
授 業 計 画									
第 1 回	オリエンテーション 健康的なライフスタイルについて								
第 2 回	9B: Sleep and dreams 睡眠と夢について								
第 3 回	10A: Improve your memory! 物事を覚える方法について話そう								
第 4 回	10B: Good advice 悩み相談、アドバイス								
第 5 回	11A: How to get there 道の尋ね方								
第 6 回	11B: Plenty to do お勧めの場所、楽しい一日について考える								
第 7 回	12A: Holidays 祝日の日について話そう								
第 8 回	12B: Good manners マナーや異なる習慣について話そう								
第 9 回	14A: My dream home 夢のマイホームについて話そう								
第 10 回	14B Unusual homes 好みの家について話そう								
第 11 回	15A: Childhood memories 子どもの頃の思い出について話そう								
第 12 回	15B: Fads and Fashions 流行とファッションについて話そう								
第 13 回	16A: Hopes and dreams 過去の失敗、今後の夢について話そう								
第 14 回	16B: The world in the future 未来について語ろう								
第 15 回	Final Review of Units 9-16 ふりかえりとまとめ								
定期試験	実施する								
テ キ ス ト	Leo Jones 著 「LET'S TALK STUDENT'S BOOK 1」 Cambridge University Press								
参 考 書 参考資料等	なし								
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 (講義中の課題)		合 計	
	50%	%	%	%	%	50%		100%	

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	道山 知成 日置 智子		
データサイエンス入門		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単 位			担当 形態	クラス分け・単独	
科 目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目							
施行規則に定める 科目区分等		・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 数理、データ活用及び人工知能に関する科目							
授業のテーマ及び到達目標									
今後の情報を基盤とした社会においては、データサイエンスの基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力が必要となってくる。そのためデータサイエンスを基盤的リテラシーと捉え、全員が身に付けていくことが重要である。この科目はデータサイエンスの入門科目として位置づけられる科目である。データサイエンスが、社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのかを理解し、社会の実データ・実課題を適切に読み解き、判断できることを念頭に置きながら、そのための基礎的な分析手法を、表計算ソフトを用いながら学んでいく。									
【到達目標】									
(i) データサイエンスが、社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるかを理解することができる。									
(ii) 社会の実データ・実課題を適切に読み解き、判断できる。									
(iii) 基礎的な分析の手法を、表計算ソフトを用いて実行できる。									
授 業 の 概 要									
データサイエンス入門はオンデマンド型の授業として実施する。									
毎週、1 回分の動画教材等をオンラインで配信する。受講生はその教材によって学習を進め、各回の課題や小レポートに取り組み、提出すること。15 回の授業の後に期末試験を実施する。									
授 業 計 画									
第 1 回		オリエンテーション Society 5.0 とは、社会で活用されているデータの例、PPDAC サイクルとは							
第 2 回		データ・AI を扱う上での留意事項、データを守る上での留意事項							
第 3 回		データの種類と取得、折れ線グラフ							
第 4 回		データの可視化							
第 5 回		代表値(算術平均・中央値・モード)、データの並べ替え							
第 6 回		散布度(分散・標準偏差、範囲・四分位範囲)、箱ひげ図							
第 7 回		度数分布表とヒストグラム							
第 8 回		分割表・2 次元ヒストグラム・散布図・相関係数							
第 9 回		相関関係と因果関係、単回帰分析							
第 10 回		単回帰分析(予測値と残差)、重回帰分析							
第 11 回		母集団と標本、全数調査(国勢調査)							
第 12 回		GIS 入門							
第 13 回		データを用いた演習、レポート作成に向けた、課題発見							
第 14 回		データを用いた演習、レポート完成							
第 15 回		授業のまとめ、レポートに対するコメント							
定期試験		実施する							
テキスト		なし							
参 考 書 参考資料等		教養としてのデータサイエンス (データサイエンス入門シリーズ) 内田誠一他 講談社							
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 (講義中の課題)	合 計	
		40%	%	20%	40%	%	%	100%	

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	渡部 明
教育原理		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単 位		担当 形態	単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想						
授業のテーマ及び到達目標							
「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」について教授する。そして、現代の学校教育が抱える諸問題 や実践例をめぐり、その背景にある社会状況及び教育の意義と課題を検討する。							
【到達目標】							
①「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基本的な知識を身に付けることができた。 ②教育の意義と課題について思索できるようになった。							
授 業 の 概 要							
教科書に即して授業を進める。そして、必要に応じてプリントを配布する。授業計画は、進行状況・問題への 関心等に応じて、一部変更することがある。教師になることを目指す以上、その自覚をもって受講すること。							
授 業 計 画							
第 1 回	教育を基礎から考える（1） あらためて「教育とは何か」を考える（1）						
第 2 回	教育を基礎から考える（2） あらためて「教育とは何か」を考える（2）						
第 3 回	教育を基礎から考える（3） あらためて「子どもとは何か」を考える						
第 4 回	教育を基礎から考える（4） あらためて「学校とは何か」を考える						
第 5 回	教育の基礎となる、思想と歴史を学ぶ（1） 西洋の教育思想（1）						
第 6 回	教育の基礎となる、思想と歴史を学ぶ（2） 西洋の教育思想（2）						
第 7 回	教育の基礎となる、思想と歴史を学ぶ（3） 日本の教育思想（1）						
第 8 回	教育の基礎となる、思想と歴史を学ぶ（4） 日本の教育思想（2）						
第 9 回	哲学的思考の基本を学ぶ（1） 「哲学する」とはどういうことなのか						
第 10 回	哲学的思考の基本を学ぶ（2） 教育と教師を哲学する						
第 11 回	教育の現在を哲学する（1） 教育課題を哲学する（アクティブ・ラーニング、道徳の教科化など）						
第 12 回	教育の現在を哲学する（2） グループ活動						
第 13 回	教育の現在を哲学する（3） 現場と理論を結ぶ哲学（幼児教育・初等教育）						
第 14 回	教育の現在を哲学する（4） 現場と理論を結ぶ哲学（中等教育）						
第 15 回	教育原理のまとめ						
定期試験	筆記試験を実施						
テ キ ス ト	伊藤潔志 編著 『哲学する教育原理』教育情報出版						
参 考 書 参考資料等	山口意友 『教育の原理とは何かー日本の教育理念を問う』 ナカニシヤ出版 田嶋一他著 『やさしい教育原理』 有斐閣アルマ						
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 （講義中の課題）	合 計
	50%	30%		20%			100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	大坂 遊 川本 吉太郎	
教師論		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単 位		担当 教員		
						担当 形態	複数	
科	目	教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）						
授業のテーマ及び到達目標								
教師の仕事の内容を整理し、教師に求められる資質能力を多面的に学ぶ。そして、教員採用の実態を明らかにし、教師の待遇や研修など、学校制度と管理運営の概要を学ぶ。講義を通して、教員としての基本的な資質を養うとともに、教職に就くための覚悟を形成してもらう。								
授 業 の 概 要								
必要に応じてプリントを配布する。授業計画は、進行状況・問題への関心等に応じて、一部変更することがある。また、適宜グループ作業を行う予定である。								
授 業 計 画								
第 1 回	オリエンテーション	教職の意義等についての導入						
第 2 回	よい教師とは（１）	K J 法によるグループ討議と作業						
第 3 回	よい教師とは（２）	グループ別発表とコメント						
第 4 回	教師の資質能力（１）	これまでの教師						
第 5 回	教師の資質能力（２）	教師のいま K J 法によるグループ討議と作業						
第 6 回	教師の資質能力（３）	学ぶことと教えること グループ別発表とコメント						
第 7 回	教師の仕事（１）	学習指導						
第 8 回	教師の仕事（２）	生徒指導・教育相談・進路指導						
第 9 回	教師の仕事（３）	学級経営						
第 10 回	教師の養成と制度（１）	教師養成の歴史、教員と免許法、専門職としての教師						
第 11 回	教師の養成と制度（２）	教師の職務・研修						
第 12 回	教師の養成と制度（３）	教師の任用・身分・服務						
第 13 回	21 世紀の教師（１）	国際化、ジェンダー・フリー、リカレント教育						
第 14 回	21 世紀の教師（２）	奉仕活動、教師の心構え、チーム学校						
第 15 回	全体の振り返りとまとめ：講義全体のポイントを確認する							
定期試験	筆記試験を実施							
テキスト		なし						
参 考 書 参考資料等		佐久間裕之 編著『教職概論』玉川大学出版部 高谷哲也 編著『教師の仕事と求められる力量』あいり出版 谷田貝公昭（他） 編『教師論』一藝社						
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他 （講義中の課題）	合 計
		50%	30%		20%			100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当教員		川本 吉太郎	
教育行政論		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単 位		担当 教員			
						担当 形態		単独	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目							
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）							
授業のテーマ及び到達目標									
現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のそれぞれについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付けることを目指す。									
授 業 の 概 要									
教科書に即して授業を進める。基本的には講義形式で行うが、一部グループワークを取り入れる。必要に応じてプリントを配布する。授業計画は、進行状況・問題への関心等に応じて、一部変更することがある。教師になることを目指す以上、その自覚をもって受講すること。									
授 業 計 画									
第 1 回		学校を巡る近年の様々な状況の変化と指導上の課題について考える							
第 2 回		わが国の公教育制度：公教育の概念とその制度的原理について、現代の学校制度の課題について							
第 3 回		教育法制の構造と機能：教育法規の体系や構造について、教育基本法改正後の動向について							
第 4 回		教育行政の概念と基本理念：教育行政とは何かについて、教育行政の基本構造と一般原則について							
第 5 回		学校経営：学校経営とは何か、学校評価とは何かについて							
第 6 回		学校安全の目的と具体的取組：学校安全の必要性や具体的取組について							
第 7 回		教育課程行政：教育課程行政の仕組み、学習指導要領の構成と変遷、教科書検定及び採択について							
第 8 回		教職員の職務と教育評価制度：教職員の職務と服務、教育評価について、教員養成や研修制度について							
第 9 回		社会教育行政と保育行政：社会教育行政の組織や施設、その職員について、保育行政・幼稚園行政について							
第 10 回		教育財政とわが国教育行政の課題：教育財政とは何かについて、その課題について、最近の教育政策・制度改革の動向について							
第 11 回		地域との連携・協働：地域との連携・協働について							
第 12 回		アメリカ・イギリスの教育行政制度：アメリカ・イギリスの教育行政制度について							
第 13 回		フランス・ドイツの教育行政制度：フランス・ドイツの教育行政制度について							
第 14 回		ロシア・ニュージーランド・フィンランドの教育行政制度：ロシア・ニュージーランド・フィンランドの教育行政制度について							
第 15 回		全体の振り返りとまとめ：授業全体のポイントを確認する							
定期試験		筆記試験を実施							
テ キ ス ト		河野和清 編著 『新しい教育行政学』 ミネルヴァ書房							
参 考 書 参考資料等		小松茂久 著 『教育行政学』 昭和堂							
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 (講義中の課題)	合 計	
		60%	20%		20%			100%	

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当教員		藤木 大介		
教育心理学		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単位		担当教員				
						担当形態		単独		
科 目		教育の基礎的理解に関する科目								
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程								
授業のテーマ及び到達目標										
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。										
【到達目標】(1-1)幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。(1-2)乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。(2-1)様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。(2-2)主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。(2-3)幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。										
授 業 の 概 要										
児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について概説するとともに、いくつかの簡単な心理実験・調査を実施し、その解説を行う。また、毎講義でコメントシートによる質問等を求め、2, 3 回毎に回答し、より深い学びへと結びつける。なお、授業内容に関する資料はすべて授業時に配布する。予習を希望する者は参考書にあげた書籍等に目を通しておく。										
授 業 計 画										
第 1 回	学習とは								担当(藤木 大介)	
第 2 回	学習：行動主義								担当(藤木 大介)	
第 3 回	学習：情報処理論と構成主義								担当(藤木 大介)	
第 4 回	学習：動機づけ								担当(藤木 大介)	
第 5 回	学習：メタ認知と自己調整学習								担当(藤木 大介)	
第 6 回	学習：知能と創造性								担当(藤木 大介)	
第 7 回	発達とは								担当(藤木 大介)	
第 8 回	発達：認知と社会性の発達(乳幼児期)								担当(藤木 大介)	
第 9 回	発達：認知と社会性の発達(児童期)								担当(藤木 大介)	
第 10 回	発達：認知と社会性の発達(青年期, 成人期)								担当(藤木 大介)	
第 11 回	発達：発達障害								担当(藤木 大介)	
第 12 回	教授とは								担当(藤木 大介)	
第 13 回	教授：教授法								担当(藤木 大介)	
第 14 回	教授：教育評価(評価の対象, 意義, 測定と評価)								担当(藤木 大介)	
第 15 回	教授：教育評価(評価の方法, テストの種類と作成法, 新しい評価)								担当(藤木 大介)	
定期試験	なし									
テ キ ス ト		中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領								
参 考 書 参考資料等		尾形和男(編著) 発達と学習の心理学 田研出版 栗山和広(編著) 授業の心理学：認知心理学からみた教育方法論 福村出版								
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 0	合 計		
		%	100%	%	%	%	%	100%		

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	中嶋 克成	
特別支援教育		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単 位			担当 形態	単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解						
授業のテーマ及び到達目標								
通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することをねらいとする。								
授 業 の 概 要								
必要に応じてプリントを配布する。授業計画は、進行状況・問題への関心等に応じて、一部変更することがある。また、当授業科目では主体的・協働的な学びと講義とを有機的に連携させながら進行していく予定である。適宜グループワーク・実験・体験学習を行うため学生の積極的な関わりが重要となる。								
授 業 計 画								
第 1 回	特別支援教育の意義や その制度について考える インクルーシブ教育【グループディスカッション】 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容							
第 2 回	特別支援教育の歴史 特別支援教育の対象幼児・児童・生徒【個別の支援計画】							
第 3 回	視覚障害領域①：視覚障害者の心理・生理・病理（弱視・盲）【視覚障害シミュレーション体験】							
第 4 回	視覚障害領域②：視覚障害者の教育法（弱視・盲）【点字版及び白杖体験】							
第 5 回	聴覚障害領域①：聴覚障害者の心理・生理・病理（難聴・ろう）【オーディオグラム】							
第 6 回	聴覚障害領域②：聴覚障害者の教育法（難聴・ろう）【手話ビデオ教材】							
第 7 回	知的障害領域①：知的障害者の心理・生理・病理【知能検査】							
第 8 回	知的障害領域②：知的障害者の教育法【事例検討・グループディスカッション】							
第 9 回	病弱領域：病弱者の心理・生理・病理および教育法【院内学級ビデオ教材】							
第 10 回	肢体不自由領域：肢体不自由者の心理・生理・病理および教育法【車いす体験】							
第 11 回	重度・重複障害：重度・重複障害の心理・生理・病理および教育法【疑似体験（盲ろう者含む）】							
第 12 回	発達障害：学習障害・注意欠陥多動性障害、高機能自閉症・アスペルガー障害など【グループディスカッション】							
第 13 回	情緒障害・言語障害：特別な教育的ニーズを持つ幼児・児童・生徒【外国語による疑似体験学習】							
第 14 回	障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援：母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応							
第 15 回	授業の総括とまとめ：通常の学級における特別支援教育と特別支援教育コーディネーター 合理的配慮と交流及び共同学習							
定期試験	筆記試験を実施							
テ キ ス ト	川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳：特別支援教育総論 インクルーシブ時代の理論と実践 北大路書房							
参 考 書 参考資料等	授業内で適宜指示する。							
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 （講義中の課題）	合 計	
	50%		25%	25%			100%	

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当		
教育課程論		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単 位		担当 教員	安藤 和久	
						担当 形態	単独	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）						
授業のテーマ及び到達目標								
教育課程とは、学校教育の目的を実現するために、児童・生徒の心身の発達や科学の系統に応じて教育すべき内容を選択、組織化し、排列したものである。本授業では、教育課程の役割や意義、編成原理と方法に関する理解を深め、学校における教育課程の実践的展開について具体例を手がかりにしながら理論的・実践的に学習し、教師として必要な基礎を習得する。さらに、ディスカッションを通して学習内容を深め、教育に対する見方・考え方を深める。								
授 業 の 概 要								
授業は対面・同期、非対面・同期、非対面・非同期を併用したハイフレックス形式で実施する。本授業は大きく3つの内容群(教育課程の役割と意義、教育課程編成の原理と方法、教育課程の理論と実践)で構成されており、それぞれ配布資料等を用いて指導する。各内容群のまとめに課題を課すと同時に、講義全体の内容に関わる最終試験を課す。								
授 業 計 画								
第 1 回	オリエンテーション：教育課程とは何か 教育課程論の全体像を理解し、教育課程論を学ぶ意義を知る。							
第 2 回	教育課程の役割と意義①教育課程とカリキュラム 教育課程とカリキュラムの違いを理解する。							
第 3 回	教育課程の役割と意義②学力とは何か 学力に関する諸言説について学ぶ。							
第 4 回	教育課程の役割と意義③学習指導要領の変遷 今日までの日本の学習指導要領の変遷を学び、それらの諸特徴を理解する。							
第 5 回	教育課程の役割と意義④今次学習指導要領の特徴今次学習指導要領の特徴を理解する。							
第 6 回	教育課程編成の原理と方法①教育課程編成の原理 教育課程編成の諸原理を理解し、教育課程編成上の重要な論点を理解する。							
第 7 回	教育課程編成の原理と方法②教育課程編成の諸類型 教育課程編成の諸類型を学び、それらの特徴を理解する。							
第 8 回	教育課程編成の原理と方法③教育課程編成の実際 教育課程を編成する際の実践的課題を理解する。							
第 9 回	教育課程編成の原理と方法④カリキュラム評価と学校改革 カリキュラム評価の方法を理解し、学校改革へとつなげる方途を検討する。							
第 10 回	教育課程の理論と実践①国際学力調査とコンピテンシー 国際学力調査とその影響による学校教育の動向を理解する。							
第 11 回	教育課程の理論と実践②カリキュラム・マネジメントと学校評価 カリキュラム・マネジメントの概念と背景を理解し、実践的課題を検討する。							
第 12 回	教育課程の理論と実践③教育実践における子ども理解 教育実践における子ども理解の位置づけと授業改善の方法を学ぶ。							
第 13 回	教育課程の理論と実践④地域づくりと教育課程編成 教育課程編成を手がかりとした学校と地域の協働のあり方について検討する。							
第 14 回	教育課程編成における教師の役割 教育課程編成における教師の役割を理解し、自身の実践的課題を考察する。							
第 15 回	学修の振り返り 講義全体を振り返り、これからの教育課程上の課題とその解決の方途を考える。							
定期試験	筆記試験を実施							
テ キ ス ト		テキストは指定しない						
参 考 書 参考資料等		中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 文部科学省 安彦忠彦(2006)『改訂版 教育課程編成論-学校は何を学ぶところか』放送大学教育振興会。 石井英真(2020)『授業づくりの深め方-「良い授業」をデザインするための5つのツボ』ミネルヴァ書房。 西岡加名恵(2016)『教科と総合学習のカリキュラム設計-パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化。 樋口直宏・吉田成章編(2021)『教育方法と技術・教育課程』協同出版。 深澤広明・吉田成章編(2104)『学習集団研究の現在 Vol. 1 いま求められる授業づくりの転換』溪水社。 松下佳代(2007)『パフォーマンス評価-子どもの思考と表現を評価する』日本標準。						
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他 (講義中の課題)	合 計
		70%					30%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員	渡部 明
道徳教育		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単 位		担当 形態	単独
科	目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		道徳の理論及び指導法					
授業のテーマ及び到達目標							
道徳教育の目標は、道徳的な心情、判断力、実践意欲、態度などの道徳性を養うことである。このことは、道徳の時間はもちろんのこと、その他の学校の教育活動全体を通じて、すなわち、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、行うものである。そして、その道徳教育の内容は、小学校高学年、中学校では二十二の項目になる。道徳の意義や原理を踏まえた上で、これらのことを理解し、子どもたちに教授できるようにする。							
授 業 の 概 要							
教科書を使用し、その理解を深めていく。そして、道徳教育の学習指導案を作成する。教師になることを目指す以上、その自覚をもって受講すること。授業計画は、進行状況・問題への関心等に応じて、一部変更することがある。							
授 業 計 画							
第 1 回	オリエンテーション、道徳をとりまく問題状況 教育の基礎理論としての道徳教育						
第 2 回	道徳とは何かを考える						
第 3 回	道徳性の発達段階に応じた道徳教育						
第 4 回	道徳教育の構造と道徳科						
第 5 回	道徳教育と道徳教育指導要領改訂の要点について考える 総説：改訂の経緯、基本方針、要点 第2章 道徳教育の目標						
第 6 回	第3章 道徳科の内容						
第 7 回	第4章 指導計画の作成と内容の取扱い						
第 8 回	第5章 道徳科の評価						
第 9 回	学習指導案の作成について、実例による教授―反転授業の試み―						
第 10 回	各自指導案を作成する（1） 題材の選択と構成						
第 11 回	各自指導案を作成する（2） 指導案を作成する						
第 12 回	作成した指導案を基に、模擬授業をする 各自発表し、取り入れるべき点・改善点を指摘し合う						
第 13 回	グループの代表者による指導案の発表 全員で取り入れるべき点・改善点を指摘し合う（代表者1）						
第 14 回	グループの代表者による指導案の発表 全員で取り入れるべき点・改善点を指摘し合う（代表者2）						
第 15 回	授業全体の振り返りとまとめ						
定期試験	筆記試験を実施						
テ キ ス ト		文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（平成29年7月） 教育出版					
参 考 書 参考資料等		文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 教育出版 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 ぎょうせい 文部科学省『中学校学習指導要領』 東山書房					
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 （講義中の課題）	合 計
	40%		30%			30%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当 教員		藤本 勇二							
特別活動及び総合的な学習の時間		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単位		担当 教員									
						担当 形態		単独							
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目													
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 総合的な学習の時間の指導法 ・ 特別活動の指導法													
授業のテーマ及び到達目標															
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な探究の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して促え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。															
授 業 の 概 要															
教科書に即しながら授業を進める。基本的には講義形式で行うが、一部グループワークを取り入れる。そして、必要に応じてプリントを配布する。授業計画は、進行状況・問題への関心等に応じて、一部変更することがある。教師になることを目指す以上、その自覚をもって受講すること。															
授 業 計 画															
第 1 回		特別活動とは何かについて考える 特別活動の目標：目標、基本的な性格と教育活動全体における意義について考える（理論編）													
第 2 回		各活動・学校行事の目標と内容： （１）学級活動・ホームルーム活動、（２）生徒会活動、（３）学校行事について考える（理論編）													
第 3 回		指導計画の作成と内容の取扱い：（１）指導計画の作成に当たっての配慮事項、内容の取扱いについての配慮事項について考える、（２）国旗・国家の取扱い、担当教師、評価について考える（理論編）													
第 4 回		指導計画を作成する①：（１）全体計画を作成する、（２）各活動の年間指導計画を作成する、（３）学級活動もしくはホームルーム活動の１単位時間の指導計画を作成する（実践編）													
第 5 回		指導計画を作成する②：（４）生徒会活動の１単位時間の指導計画を作成する、（５）学校行事の６単位時間の指導計画を作成する（実践編）													
第 6 回		学級活動の発表（指導計画案の代表例の発表（パワーポイント使用））（実践編）													
第 7 回		学校行事の発表（指導計画案の代表例の発表（パワーポイント使用））（実践編）													
第 8 回		総合的な学習（探究）の時間とは何か 総合的な学習（探究）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点について考える（理論編）													
第 9 回		総合的な学習（探究）の時間の指導計画作成について考える（年間指導計画と単元計画）（理論編）													
第 10 回		総合的な学習（探究）の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点について（理論編）													
第 11 回		指導の留意点と評価の方法を考慮した、総合的な学習（探究）の時間の年間指導計画（及び単元計画）を作成する（実践編）													
第 12 回		指導の留意点と評価の方法を考慮した、総合的な学習（探究）の時間の年間指導計画（及び単元計画）を作成する（実践編）													
第 13 回		総合的な学習（探究）の時間の年間指導計画の発表（パワーポイント使用）（実践編）													
第 14 回		総合的な探究の時間の単元計画の発表（パワーポイント使用）（実践編）													
第 15 回		全体の振り返りとまとめ：授業全体のポイントを確認する													
定 期 試 験		筆記試験を実施													
テ キ ス ト		文部科学省編		『小学校学習指導要領解説 特別活動編』		平成 29 年 7 月									
		文部科学省編		『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』		平成 29 年 7 月									
		文部科学省編		『中学校学習指導要領解説 特別活動編』		平成 29 年 7 月									
		文部科学省編		『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』		平成 29 年 7 月									
		文部科学省編		『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』		平成 30 年 7 月									
		文部科学省編		『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』		平成 30 年 7 月									
参 考 書 参考資料等		文部科学省編		『小学校学習指導要領』		平成 29 年 7 月									
		文部科学省編		『中学校学習指導要領』		平成 29 年 7 月									
		文部科学省編		『高等学校学習指導要領』		平成 30 年 7 月									
学 生 に 対する評価		試 験		小テスト		レポート		発表・実技		ポートフォリオ		そ の 他 （講義中の課題）		合 計	
		60%						40%						100%	

授 業 科 目 名		必 修 ／ 選 択		単位数	担当 教員	大坂 遊 安藤 和久	
教育方法論Ⅰ（ICT 活用の理論 と実践を含む。）		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単位	担当 形態	複数	
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法						
授業のテーマ及び到達目標							
これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法・教育の技術に関する基礎的な知識・技術について学ぶ。また情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能について学ぶ。 【到達目標】 ①これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できている。 ②教育の目的に適した指導技術を理解し、身につけている。 ③情報通信技術の活用の意義と理論を理解できている。 ④情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解できている。 ⑤生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付けている。							
授 業 の 概 要							
授業では、授業の分析・評価・改善および授業プランづくりを行う。教員による講義を極力少なくし、演習・ワークショップ・課題発表などの活動に取り組む。授業中はグループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行うため、他者と協同で作業をしたり、他者に意見を伝えたりする力量が求められる。授業の節目となる場面では、これまでの学びの成果を確かめる課題を提出してもらう。課題作成や ICT 活用のため、LMS を積極的に利用する。							
授 業 計 画							
第 1 回	オリエンテーション：これからの教師に求められる授業（学習指導）の専門性とは？						
第 2 回	授業設計と実践のあり方①：どうすれば子どもは「主体的・対話的に学びたい」と思うのか？						
第 3 回	授業設計と実践のあり方②：学習目標や学習課題をどのように明確化するか？						
第 4 回	授業設計と実践のあり方③：深い学びを導く教材研究のあり方とは？						
第 5 回	授業設計と実践のあり方④：「評価」を活かした授業づくりとは？						
第 6 回	授業設計と実践のあり方⑤：授業を支え、学びを引き出す指導技術とは？						
第 7 回	授業設計と実践のあり方⑥：授業の学習指導案を構想してみよう						
第 8 回	ICT 活用の理論と方法①：教師として求められる ICT を活用した指導力とは？						
第 9 回	ICT 活用の理論と方法②：先端技術とデジタルコンテンツを活用した教育とは？						
第 10 回	ICT 活用の理論と方法③：教室内外の対話・協働や個別最適化された学びを実現する ICT 活用とは？						
第 11 回	ICT 活用の理論と方法④：ICT による学びの保障や遠隔授業の可能性とは？						
第 12 回	ICT 活用の理論と方法⑤：ICT を活用したこれからの学習評価や校務のあり方とは？						
第 13 回	ICT 活用の理論と方法⑥：ICT を活用して育成すべき情報モラル・情報セキュリティ能力とは？						
第 14 回	ICT 活用の理論と方法⑦：ICT を活用して育成すべきデジタルシティズンシップとは？						
第 15 回	ICT 活用の理論と方法⑧：ICT 活用を前提とした学習指導の計画を構想してみよう						
定期試験	実施しない						
テ キ ス ト	小室弘毅・齋藤智哉編著「ワークで学ぶ教育の方法と技術」ナカニシヤ出版 田中耕治編「よくわかる授業論」ミネルヴァ書房 稲垣忠編著「教育の方法と技術 ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び」北大路書房						
参 考 書 参考資料等	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 文部科学省 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 文部科学省						
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他	合 計
	%	%	50%	50%	%	%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数	担当 教員	大坂 遊 安藤 和久	
教育方法論Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単位	担当 教員		
					担当 形態	複数	
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教育の方法及び技術					
授業のテーマ及び到達目標							
これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法・教育の技術に関する基礎的な知識・技術について学ぶ。また情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能について学ぶ。							
【到達目標】							
①これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できている。							
②教育実践上の諸課題や論点・争点を理解し、それに対する自身の見解を述べることができる。							
③授業研究の営みの中で行われる授業の構想・観察・分析・改善に関わる諸活動に主体的に参加し、その重要性を理解することができる。							
授 業 の 概 要							
授業では、授業の分析・評価・改善および授業プランづくりを行う。教員による講義を極力少なくし、演習・ワークショップ・課題発表などの活動に取り組む。授業中はグループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行うため、他者と協同で作業をしたり、他者に意見を伝えたりする力量が求められる。授業の節目となる場面では、これまでの学びの成果を確かめる課題を提出してもらう。課題作成や ICT 活用のため、LMS を積極的に利用する。							
授 業 計 画							
第 1 回	オリエンテーション：授業を「マニュアル」化することはできるのか？						
第 2 回	教育実践をとりまく諸課題を考える①：学校外で子どもはどのように過ごしているのか？						
第 3 回	教育実践をとりまく諸課題を考える②：「普通の授業」が難しい子どもは何に苦しんでいるのか？						
第 4 回	教育実践をとりまく諸課題を考える③：多様な子どもを授業に巻き込む方法を考える						
第 5 回	教育実践をめぐる論点・争点①：授業の「流れ」や「ヤマ場」とは何か？						
第 6 回	教育実践をめぐる論点・争点②：よい「問い（発問）」とは何か？						
第 7 回	教育実践をめぐる論点・争点③：「板書」は何のために・どう書くのか？						
第 8 回	教育実践をめぐる論点・争点④：「ICT」はどのように活用すればよいのか？						
第 9 回	教育実践をめぐる論点・争点⑤：子ども同士の「かかわり」をどう生み出すか？						
第 10 回	教育実践をめぐる論点・争点⑥：「よい」授業にするためのチェックリストをつくろう						
第 11 回	授業研究の営みを経験する①：そもそも何のために授業をするのか？						
第 12 回	授業研究の営みを経験する②：学習指導案には何を書けばよいのか？						
第 13 回	授業研究の営みを経験する③：「よい」学習指導案はどう「よい」のか？						
第 14 回	授業研究の営みを経験する④：自分の作成した学習指導案を改善してみよう						
第 15 回	授業研究の営みを経験する⑤：どうすれば授業をよりよくするためのアドバイスができるか？						
定期試験	実施しない						
テ キ ス ト	小室弘毅・齋藤智哉編著「ワークで学ぶ教育の方法と技術」ナカニシヤ出版 田中耕治編「よくわかる授業論」ミネルヴァ書房 稲垣忠編著「教育の方法と技術 ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び」北大路書房						
参 考 書 参考資料等	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 文部科学省 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 文部科学省						
学 生 に 対 する 評 価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他	合 計
	%	%	50%	30%	20%	%	100%

授 業 科 目 名		必 修 / 選 択		単位数		担当	石橋 孝明 山崎 茜	
生徒指導論（進路指導を含む。）		教員の免許状取得のための必修科目		2 単位		担当教員		
						担当形態	オムニバス	
科 目		道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等		・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
授業のテーマ及び到達目標								
生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。								
授 業 の 概 要								
教科書に即しながら授業を進める。基本的には講義形式で行うが、一部グループワークを取り入れる。そして、必要に応じてプリントを配布する。授業計画は、進行状況・問題への関心等に応じて、一部変更することがある。教師になることを目指す以上、その自覚をもって受講すること。								
授 業 計 画								担当
第 1 回	生徒指導とは何か 生徒指導の意義と原理：生徒指導の意義と原理、課題							石橋
第 2 回	教育課程と生徒指導：教育課程における生徒指導の位置づけ等							石橋
第 3 回	児童生徒の心理と生徒理解：児童期・青年期の発達、発達に相応しい生徒指導、児童生徒理解の資料とその収集							石橋
第 4 回	学校における生徒指導体制：年間指導計画、教師の研修、全校指導体制の確立等							石橋
第 5 回	教育相談：教育相談の意義や相談体制の構築・進め方等							石橋
第 6 回	生徒指導の進め方（1）全体への指導：組織的対応、教職員の役割、守秘義務、説明責任等、学級担任・ホームルーム担任の指導のあり方等							山崎
第 7 回	生徒指導の進め方（2）個別課題に対する指導：問題行動の早期発見・効果的な指導等、飲酒・非行・暴力行為の防止と対応							山崎
第 8 回	生徒指導の進め方（3）個別課題に対する指導：いじめ・インターネット・携帯電話・自殺・不登校等の防止と対応							山崎
第 9 回	生徒指導に関する法制度等：校則、懲戒と体罰、出席停止、法令等							石橋
第 10 回	学校と家庭・地域・関係機関との連携：連携の必要性・必然性等							石橋
第 11 回	進路指導・キャリア教育の意義や原理、教育課程におけるそれらの位置づけの理解							石橋
第 12 回	キャリア教育の視点と指導の在り方の具体例、組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携のあり方							山崎
第 13 回	全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方：キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義、ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点							山崎
第 14 回	個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導：キャリア形成の視点に立った自己評価の意義と、ポートフォリオの活用の在り方、キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法							山崎
第 15 回	全体の振り返りとまとめ：授業全体のポイントを確認する							石橋
定期試験	筆記試験を実施							
テ キ ス ト		文部科学省編 『生徒指導提要』 教育図書株式会社						
参 考 書 参考資料等		文部科学省編 『中学校学習指導要領』 東山書房 平成 29 年 7 月 文部科学省編 『高等学校学習指導要領』 東山書房 平成 30 年 7 月						
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポ ー ト フ ォ リ オ	そ の 他 （講義中の課題）	合 計
		60%	25%		15%			100%

授業科目名		必修 / 選択		単位数		担当教員		前田 美穂 本田 真	
教育相談Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単位		担当教員			
						担当形態		オムニバス	
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目							
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法							
授業のテーマ及び到達目標									
教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。「教育相談Ⅰ」では、小・中学生（児童期から青年期前期）の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を学ぶことが主眼となる。 また、それらを基本とした事例検討を通して、中学校におけるアセスメント及び対応策についても理解し、その応用についても学ぶ。 【到達目標】 ①学校における教育相談の意義と理論を理解する。 ②教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 ③小・中学校における教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。									
授 業 の 概 要									
講義に加え、ディスカッションや演習を中心に実施するため、学生には主体的な参加を求める。 また、学生には、単に受動的に講義を受けるのではなく、常に教育的課題に意識を向け、疑問をもって講義に臨んでもらいたい。その事前準備として、テキストを一読することが望まれる。									
授 業 計 画									
第 1 回	教育相談の意義と課題							担当（ 本 田 ）	
第 2 回	児童期から青年期前期（思春期）の心理と発達課題							担当（ 本 田 ）	
第 3 回	カウンセリングの基礎知識とカウンセリングマインド							担当（ 本 田 ）	
第 4 回	小・中学生を対象としたカウンセリングの基本技法とアセスメント							担当（ 本 田 ）	
第 5 回	校内体制と組織的な教育相談							担当（ 本 田 ）	
第 6 回	学級集団づくりとともに進める教育相談							担当（ 本 田 ）	
第 7 回	教育活動とともに進める教育相談							担当（ 本 田 ）	
第 8 回	配慮が必要な子どもの理解と対応							担当（ 本 田 ）	
第 9 回	障害のある子どもの理解と対応							担当（ 前 田 ）	
第 10 回	不登校の理解と対応							担当（ 前 田 ）	
第 11 回	いじめの理解と対応							担当（ 前 田 ）	
第 12 回	非行の理解と対応							担当（ 前 田 ）	
第 13 回	中学校におけるキャリア教育の実践							担当（ 前 田 ）	
第 14 回	保護者との連携							担当（ 前 田 ）	
第 15 回	専門機関と連携							担当（ 前 田 ）	
定期試験	定期試験を実施							担当（ 本田・前田 ）	
テ キ ス ト		『教育相談の理論と実際 改訂版』河村茂雄編著（図書文化社）							
参 考 書 参考資料等		必要に応じて講義時に指示する。							
学生に 対する評価		試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 0	合 計	
		5 0 %	%	%	%	5 0 %	%	1 0 0 %	

授業科目名		必修 / 選択		単位数		担当教員	
教育相談Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目		2 単位		前田 美穂 本田 真	複数
						担当 形態	
科	目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
授業のテーマ及び到達目標							
教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。「教育相談Ⅱ」では、高校生（青年期）の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む）を学ぶことが主眼となる。 また、それらを基本とした事例検討を通して、高等学校におけるアセスメント及び対応策についても理解し、その応用についても学ぶ。 【到達目標】 ①学校における教育相談の意義と理論を理解する。 ②教育相談を進める際に必要な基礎的な知識（カウンセリングに関する基礎的な事柄を含む）を理解する。 ③高等学校における教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。							
授業の概要							
講義に加え、ディスカッションや演習を中心に実施するため、学生には主体的な参加を求める。 また、学生には、単に受動的に講義を受けるのではなく、常に教育的課題に意識を向け、疑問をもって講義に臨んでもらいたい。その事前準備として、テキストを一読することが望まれる。							
授業計画							
第 1 回	教育相談の意義と課題						担当(本田・前田)
第 2 回	青年期の心理と発達課題						担当(本田・前田)
第 3 回	カウンセリングの基礎知識とカウンセリングマインド						担当(本田・前田)
第 4 回	高校生を対象としたカウンセリングの基本技法とアセスメント						担当(本田・前田)
第 5 回	校内体制と組織的な教育相談						担当(本田・前田)
第 6 回	学級集団づくりとともに進める教育相談						担当(本田・前田)
第 7 回	教育活動とともに進める教育相談						担当(本田・前田)
第 8 回	配慮が必要な子どもの理解と対応						担当(本 田)
第 9 回	障害のある子どもの理解と対応						担当(本 田)
第 10 回	不登校・いじめ・非行の理解と対応						担当(本 田)
第 11 回	教育的課題のある生徒への対応の実践（１）						担当(本 田)
第 12 回	教育的課題のある生徒への対応の実践（２）						担当(本 田)
第 13 回	高等学校におけるキャリア教育の実践・キャリアカウンセリングの実践						担当(本 田)
第 14 回	保護者との連携と対応の実践						担当(本 田)
第 15 回	専門機関と連携						担当(本 田)
定期試験	筆記試験を実施						担当(本田・前田)
テキスト		『教育相談の理論と実際 改訂版』河村茂雄編著（図書文化社）					
参考書 参考資料等		必要に応じて講義時に指示する。					
学生に 対する評価	試 験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	そ の 他 0	合 計
	5 0 %	%	%	%	5 0 %	%	1 0 0 %

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習		単位数：2単位		担当教員名：渡部明、大坂遊	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 50人					
教員の連携・協力体制					
担当教員は教育実習指導担当者である。連携・協力体制として、他の教職専門及び教科に関する科目の担当教員とともに構成する教職課程委員会が本科目の企画・運営に協力し、学生の習熟度に応じた講義外での指導も行う。その際、上記の教職課程委員会の教員は、各学生の「履修カルテ」を参照しながら補完的な指導を適宜行う。更に模擬授業においては教科教育法の担当教員、現職の教員(教員勤務経験者を含む)の協力を得る。またフィールドワークは、教育委員会および各学校の協力を得て実施する。授業の指導案作成・模擬授業は、担当者の主導の基に教科担当教員または教職担当教員が模擬授業の前後において学生に対する指導・コメントを行う。					
授業のテーマ及び到達目標					
【授業のテーマ】					
小学校や中学校、高等学校の教育現場で求められる教育実践力の向上を目指し、教育現場における具体的問題についての討議や、模擬授業を実施する。模擬授業においては他の受講生の批評を含めた研究協議の場を設け、教職実践力の習熟状況について検討する。教育実習日誌を中心とした「履修カルテ(教職課程の学修履歴)」をもとに、学外での教育活動実績を総合的に吟味し、各教科の指導力はもとより、教員としての使命感や職業倫理、また学級経営や学校運営についての理解を深める。さらに、教育実習を含めたこれまでの活動の振り返りと足りない側面の洗い出しを行い、課題解決(能力獲得)に向けた行動計画の策定、行動の実施と振り返りにかかわる活動を行う。					
【到達目標】					
①教師として求められる使命感や責任感、教育的愛情を有する。					
②教師として求められる社会性や対人関係能力を有する。					
③教師として求められる生徒理解や学級経営に関する専門的知見を有する。					
④教師として求められる教科内容等の指導に関する専門的知見を有する。					
授業の概要					
担当教員2名による授業では、教育実習を含めたこれまでの活動の振り返りと足りない側面の洗い出しを行い、課題解決(能力獲得)に向けた行動計画の策定、行動の実施と振り返りにかかわる活動を行う。授業の方法は演習を中心とし、ICTを積極的に活用する。他の教職専門及び教科に関する科目の担当教員とともに構成する教職課程委員会が本科目の企画・運営に協力し、履修者の習熟度に応じた授業外での指導も行う。その際、上記の教職課程委員会の教員は、各学生の「履修カルテ」を参照しながら補完的な指導を適宜行う。更に模擬授業においては教科教育法の担当教員、現職の教員(教員勤務経験者を含む)の協力を得る。またフィールドワークは、教育委員会および各学校の協力を得て実施する。授業の指導案作成・模擬授業は、担当者の主導の基に教科に関する科目または教職専門の担当教員が模擬授業の前後において学生に対する指導・コメントを行う。					

授業の計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	教育実習の振り返りと総括
第3回	教職に関わる能力の自己評価と課題の洗い出し
第4回	課題解決実践に向けた計画立案①：課題解決プロジェクトのテーマ、目標、成果物の設定
第5回	課題解決実践に向けた計画立案②：課題解決プロジェクトに共同で取り組むグループの編成
第6回	課題解決実践のための情報提供①： 地域連携活動やカリキュラムマネジメントに関する専門家によるゲスト講話
第7回	課題解決実践のための情報提供②： 教育行政や教員研修に携わる専門家によるゲスト講話
第8回	課題解決実践の方法理解①：いじめや不登校等の課題解決に関するケーススタディ
第9回	課題解決実践の方法理解②： 特別支援教育やインクルーシブ教育に関する役割演技（ロールプレーイング）
第10回	課題解決実践としての模擬授業の実施①：ICTを活用した教材指導の視点から
第11回	課題解決実践としての模擬授業の実施②：ICTを活用した学級経営や特別活動の視点から
第12回	教職課程担当教員や教職課程履修学生に対する教育実習の学びと課題の成果報告
第13回	課題解決活動成果報告①：個人で取り組んだプロジェクトの成果報告
第14回	課題解決活動成果報告②：グループで取り組んだプロジェクトの成果報告
第15回	まとめ、履修カルテや教育実習日誌への記入
テキスト	
特に使用しない	
参考書・参考資料等	
・石野正彦ほか著『教職実践演習ワークブック教職編』上越教育大学出版会、2018年 ・梨木昭平著『最新教職概論・生徒指導論「教職実践演習」対応』大学教育出版、2015年 ・梨木昭平著『教職実践演習・教育実習指導 ロールプレイ・ロールレタリング対応』大学教育出版、2015年 ・西岡加名恵ほか著『教職実践演習ワークブック ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年	
学生に対する評価	
レポート (30%)、発表・実技 (40%)、ポートフォリオ (30%) …… 合計 100%	

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。